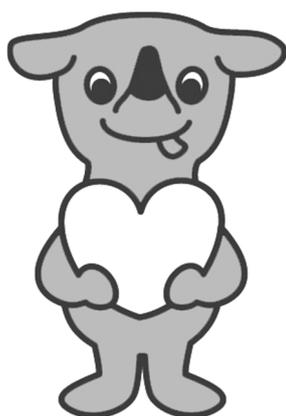


千葉県の県民活動推進に関する年次報告書 ～令和元年度～



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん



NPO案内犬
PONちゃん

令和2年12月

千葉県

目次

作成の目的	1
千葉県県民活動推進計画の概要	3
推進体制	12
《本編》令和元年度実施事業の概要及び実施結果	15
各事業の概要及び実施結果の記載	16
1 県民活動への理解や参加の促進	20
(1) 県民活動の普及啓発の推進	20
(2) 県民活動を体験する機会の提供	24
2 地域コミュニティを支える人材づくり	30
(1) 様々な県民活動で活躍する人材づくり	30
(2) 東京2020大会を契機とした人材づくりとレガシーの創出	38
3 市民活動団体等の基盤強化等の支援	42
(1) 市民活動団体等の組織運営力等の向上支援	42
(2) 中間支援組織の機能強化支援	44
(3) 民が民を支える仕組みの普及・支援	44
4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進	46
(1) 地域コミュニティにおける様々な主体の連携・協働の推進	46
(2) 市民活動団体等と県行政・市町村行政の協働の推進	52
NPO法人認証事務等について	54
《資料編》	
1-1 千葉県県民活動推進懇談会委員名簿	58
1-2 千葉県県民活動推進会議委員名簿	59
1-3 パートナーシップ推進員会議構成課	60
1-4 千葉県市民活動支援組織ネットワーク参加団体	62
2 県内NPO法人の認証状況	64
3-1 第58回県政に関する世論調査	69
3-2 令和元年度千葉県NPO法人実態調査	72
4-1 県内市町村市民活動担当課一覧	96
4-2 県民活動推進に係る市町村基本データ	101
5 県内市町村市民活動支援センター一覧	120
6 県内ボランティアセンター一覧	122

作成の目的

現在、少子高齢化の進行や地域コミュニティの機能低下などが社会全体の課題として懸念されています。

県では、県民が自発的に地域の様々な課題の解決を図り、地域社会をより豊かにしていこうとする社会貢献活動を「県民活動¹」と位置付けて、「千葉県県民活動推進計画」を策定し、県民活動を促進するための施策を展開しているところです。

本計画では、計画の進行管理について「本計画を着実に実行するため、毎年度の施策の実施状況を各行動計画に沿って整理し、その成果について進行管理を行っていきます。」としており、「本計画の進行状況等については、千葉県県民活動推進懇談会等からの意見を聞き、適正な進行管理に努めるとともに、県民に進捗状況及び評価結果を公表します。また、その結果を翌年度以降の施策に反映し、社会情勢や状況の変化に対応して本計画を推進します。」としています。

本「年次報告書」は、平成30～令和2年度を計画期間とする現計画の中間年度である令和元年度に推進してきた施策の実施状況とその成果について、千葉県県民活動推進懇談会における御意見を踏まえ、とりまとめた内容を公表するものです。

本書により、県民のみなさまや県民活動に携わる関係者のみなさまと、県民活動推進計画の実施状況と成果を共有し、今後の取組の更なる発展につなげていきたいと考えています。

是非多くの方々に御覧いただき、御意見や御提言を頂戴できれば幸いです。

¹ 県民活動とは ボランティア活動や市民活動団体の活動など、県民が自発的に地域に存在する様々な課題の解決を図り、地域社会をより豊かにしていこうとする社会貢献活動を意味します。

「県民活動」は都道府県域を意識した用語であるのに対して、「市民活動」はより一般的な用語です。

千葉県県民活動推進計画の概要（平成30年3月策定）

1 計画策定の基本的な考え方

（1）計画策定の趣旨

近年、少子高齢化の進行や、地域コミュニティの機能の低下が懸念されている中、「県民活動」の重要性が年々高まっています。

こうした中、千葉県では「千葉県県民活動推進計画」（平成27～29年度）を策定し、幅広い県民活動を推進してきました。

今後さらに県民主導の地域づくりを促進していくため、「千葉県県民活動推進計画（平成30～令和2年度）」を策定しました。

（2）本県の特性

本県には、以下のような「多様な地域性・地理的優位性」、「これまでの取組による成果の蓄積」という特性があります。

- ・多様な地域性：各地域の人口構成や経済状況も様々で、都市部から農山漁村部までを包含しており、「日本の縮図」とも言えます。
- ・地理的優位性：地域資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）が交流・循環しやすい環境となっています。
- ・これまでの取組による成果の蓄積：
県内各地において、市民活動団体、地縁団体、社会福祉協議会、学校、企業、行政など、地域の様々な主体がそれぞれの特性を活かしながら、豊かな地域社会の実現に向けて、県民活動に取り組んでいます。

（3）県民活動の必要性とその意義

地域においては、複雑で多岐にわたる課題が山積しており、それらの解決に向けた支え合いへの機運が高まる中、以下のような必要性や意義を有する県民活動の重要性への認識がますます強まっています。

1 県民活動の必要性

- （1）地域社会における社会課題の増加
- （2）共生・共助の精神に基づく地域社会づくり
- （3）地方分権と地方創生の推進

2 県民活動の意義

- （1）県民活動と自己実現
- （2）県民活動とひとづくり
- （3）県民活動に取り組む住民と行政との協働による地域づくり
- （4）地域のみんで創る支え合いと活力ある千葉県

2 本計画が目指す千葉県の姿

～ 誰もがあたりまえのように県民活動に参加し、
地域みんなで創る支え合いと活力のある千葉県 ～

上記の目指す千葉県の姿の実現にあたっては、前計画のもとで推進してきた施策をさらに前進させていくため、次のように4つの柱に整理して行動計画を定めます。

1 県民活動への理解や参加の促進

本県のボランティア活動への継続的な参加はまだ少ない状況であり、県民があたりまえのように県民活動に参加し地域に携わる社会の実現に向けて、より多くの県民の主体的な参加を促す環境づくりが重要となります。

そこで、県民活動の参加の裾野の拡大と継続した活動に向け、様々な形での情報提供や活躍の場の充実化を関係機関と協働して取り組んでいきます。

また、東京2020大会に向けた様々な取組と連携し、大会を契機としてボランティアへの関心や相互理解を更に高めることで、県民活動への理解や参加を促進していきます。

2 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

地域コミュニティの機能が低下する中、山積する地域課題に的確に対応していくためには、地域を担う人材の育成が急務となっています。

このような状況の中で開催される東京2020大会は、多くの県民のボランティア活動への参加や様々な国や地域の人々との交流による「人づくり」の絶好の機会でもあります。

そこで、今後の地域社会を担う若者に対し、「ボランティア精神」や「おもてなしの心」の醸成を図ります。また、地域課題の解決に向け、地域の様々な主体を結びつけることができる人材を育成していきます。

こうした取組を通し、人材をレガシーとして残すことで、地域の持続的な発展につなげていきます。

3 市民活動団体等の基盤強化等の支援

地域の課題解決には、市民活動団体等の安定的かつ継続的な活動が重要です。そのためには、寄附の獲得などによる団体自身の運営基盤の強化はもとより、中間支援組織による支援体制のさらなる充実化が求められます。また、「休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」が制定されたことから、本制度の活用が望まれるところです。

そこで、市民活動団体等の抱える人材面や資金面での課題の解決に必要な研修等を実施するとともに、中間支援組織の支援機能の向上に資する場を提供します。

また、広く県民に対し、寄附月間などを通じて寄附の普及・啓発に取り組みます。

併せて、休眠預金活用の新しい制度について、必要な情報を提供するなど、団体が持続的に活動できる環境を整備します。

4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

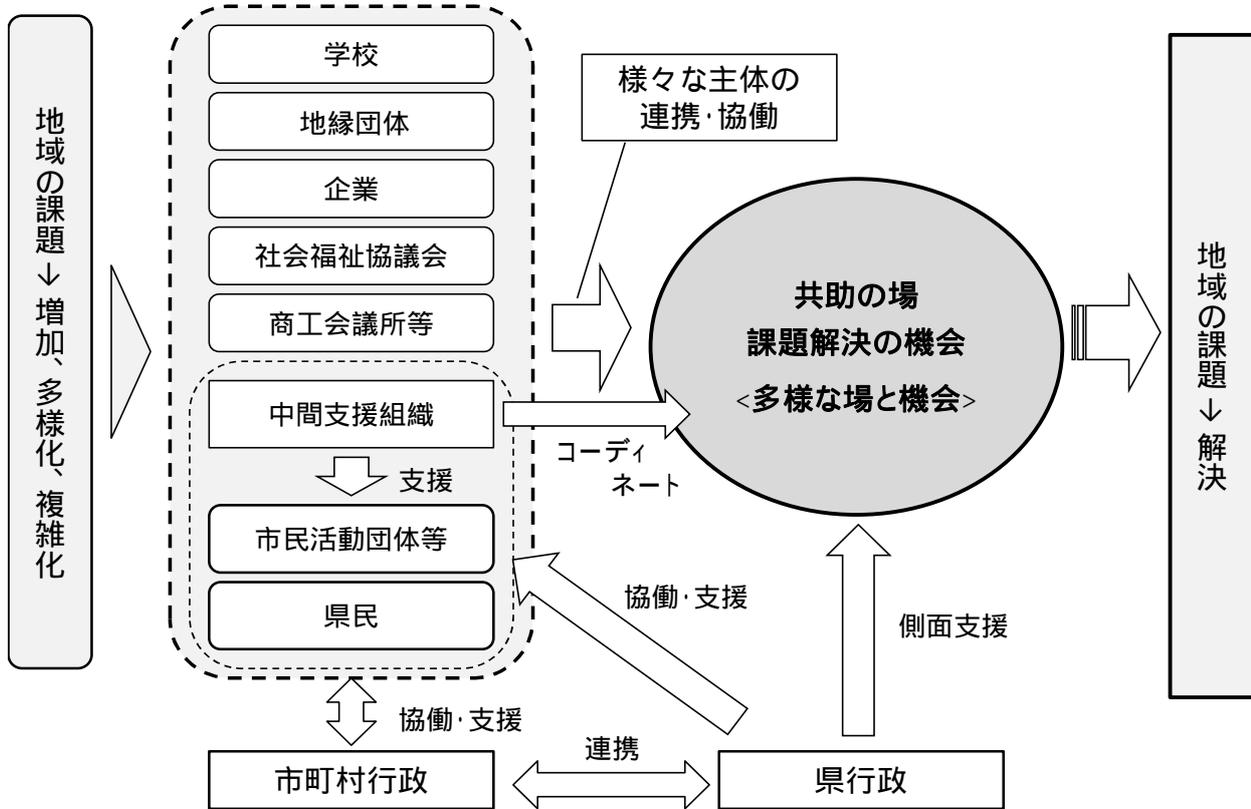
地域によって直面している課題は様々であるため、それらの解決には、地域の様々な主体がそれぞれの特性や強みを活かして連携・協働することが効果的です。

また、協働に当たっては、それぞれの主体が、地域の現状や特性を十分に把握した上で、柔軟に課題を解決できる仕組みをつくることが重要です。

そこで、行政、中間支援組織、市民活動団体、地縁団体、社会福祉協議会、学校、企業など多様な主体が連携・協働して行う地域の課題解決に向けた取組や仕組みづくりへの支援や、県と市町村の間の情報共有などによって協働を促進します。

【様々な主体による地域課題解決のイメージ】

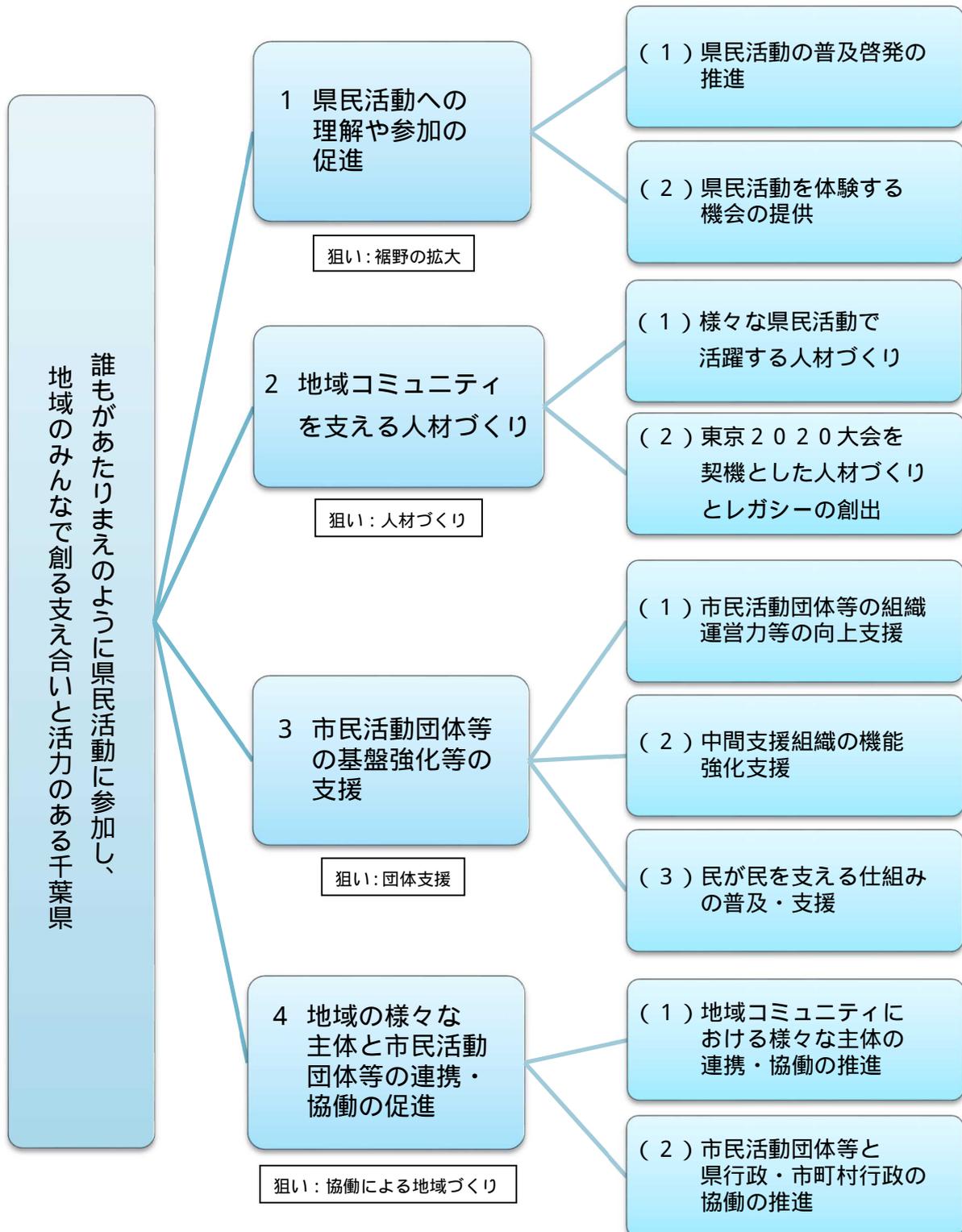
< 自助と共助 >



3 施策の体系

前項で掲げた4つの柱に沿って施策を展開していくため、重点的な取組について、次のとおり行動計画を定め、平成30年度から令和2年度までの3か年で実施します。

【 施 策 の 体 系 】



1 県民活動への理解や参加の促進

(1) 県民活動の普及啓発の推進

- 各種広報媒体を活用し、県民活動への理解や積極的な参加の促進に資する情報を発信します。
- 東京2020大会を契機として、ボランティア活動への参加機運を高めます。
- 地域住民のボランティアによる防犯パトロール活動の推進など、コミュニティにおける地域貢献活動に関する意識醸成、参加促進を進めていきます。

(2) 県民活動を体験する機会の提供

- 市町村行政、市民活動団体、社会福祉協議会、学校、企業など様々な主体が実施する、地域活動・ボランティア活動への参加の機会の提供や支援を行います。
- 市民活動支援センター、ボランティアセンターなど県民活動を支援する組織同士の連携を促進させることにより、県民活動に参加しやすい環境の整備に努めます。

< 行動計画の成果を表す指標 >

目標項目	現状	目標
市民活動団体、ボランティア活動に関心がある人の割合	41.9% ¹ (平成29年度)	55.0% (令和2年度)
ボランティア活動に参加したことがある人の割合	33.9% ² (平成29年度)	40.0% (令和2年度)

¹ ² 第54回県政に関する世論調査結果(平成29年度)より

2 地域コミュニティを支える人材づくり

(1) 様々な県民活動で活躍する人材づくり

- 各種研修や講座の実施などを通じて、様々な分野で活動するボランティア等を支援します。
- 地域課題の解決に向け、様々な主体を結びつける役割を担うコーディネーターの育成を中間支援組織と連携して行います。
- 自身の持つスキルや経験を活かして地域に貢献できる仕組みづくりを支援します。¹

(2) 東京2020大会を契機とした人材づくりとレガシーの創出

- 「外国人おもてなし語学ボランティア²」育成講座を実施し、おもてなしの心を持ち、異文化を理解できる人材を育成します。
- オリンピックパラリンピック教育等により、年代に応じたボランティアに関わる取組を推進し、次世代を担う若者のボランティアマインドを醸成します。
- 都市ボランティアへの参加者等が、大会後も引き続きボランティア活動に参加できるよう、活動の機会を提供するとともに、情報を提供できる仕組みを構築します。

< 行動計画の成果を表す指標 >

目標項目	現状	目標
ボランティア活動に継続して参加している人の割合 ³	10.1% ⁴ (平成29年度)	20.0% (令和2年度)

¹ 例えば、「プロボノ」があります。プロボノについての詳細な記述は、千葉県県民活動推進計画（平成30～令和2年度）資料編52ページ参照

² 外国人おもてなし語学ボランティアとは、街中で困っている外国人を見かけた際などに簡単な外国語を用いて道案内等の手助けを行うボランティアです。

³ 県政世論調査における「あなたは、ボランティアの活動に参加したことがありますか」との設問における、「定期的に参加している」と「時々参加している」との回答の割合の合計値

⁴ 第54回県政に関する世論調査結果（平成29年度）より

3 市民活動団体等の基盤強化等の支援

(1) 市民活動団体等の組織運営力等の向上支援

- 市民活動団体等の抱える課題の解決や基盤強化に向けて、組織運営力、事業開発力、資金調達力等を高める研修を実施します。
- 休眠預金活用¹の新しい制度や社会的インパクト評価¹などの動向を把握した上で、制度の活用や団体の運営に必要な情報を提供していきます。

(2) 中間支援組織²の機能強化支援

- 市民活動団体等の活動を支える中間支援組織に対し、支援機能の向上のための情報提供や研修を行います。
- 中間支援組織間の連携強化に向け、支援事例やノウハウを共有するためのワークショップを開催します。

(3) 民が民を支える仕組みの普及・支援

- 県民や企業などが持っている地域資源（物品、資金、情報など）を、必要としている市民活動団体等に橋渡しをする仕組みを普及します。
- 寄附月間等を活用した普及啓発を行い、県民の寄附に対する意識を高めます。

< 行動計画の成果を表す指標 >

目標項目	現状	目標
市民活動団体の活動へ参加（活動・寄附・支援）している人の割合	32.8% ³ （平成29年度）	37.0% （令和2年度）
寄附を受けたことがあるNPO法人の割合	59.4% ⁴ （平成29年度）	60.0% （令和2年度）

¹ 休眠預金活用や社会的インパクト評価については千葉県県民活動推進計画（平成30～令和2年度）資料編55ページ参照

² 千葉県県民活動推進計画（平成30～令和2年度）7ページ下部参照

³ 第54回県政に関する世論調査結果（平成29年度）より

⁴ 千葉県NPO法人実態調査結果（平成29年度）より

4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

(1) 地域コミュニティにおける様々な主体の連携・協働の推進

- 地域の特性を踏まえ、柔軟かつ効果的に課題を解決できるよう、協働による地域コミュニティづくりを支援します。
- 様々な主体が連携・協働して取り組む上で、必要となる考え方や手法を学ぶ機会の提供を行います。
- 連携・協働による優れた取組事例を表彰し、広く県民に周知します。

(2) 市民活動団体等と県行政・市町村行政の協働の推進

- 県職員に対し、市民活動団体等や協働に対する理解を促進することで、県と市民活動団体との協働を推進します。
- 県と市町村、市町村と市町村の間での情報共有や、市町村職員向け研修の開催など、市町村に対して県民活動に関する幅広い側面支援を行うことで、市民活動団体との協働を推進します。

< 行動計画の成果を表す指標 >

目標項目	現状	目標
地域の様々な主体と連携している市民活動団体の割合	69.8% ¹ (平成29年度)	72.0% (令和2年度)
市町村行政・県行政と市民活動団体との協働事業の件数	615件 ² (平成29年度)	650件 (令和2年度)

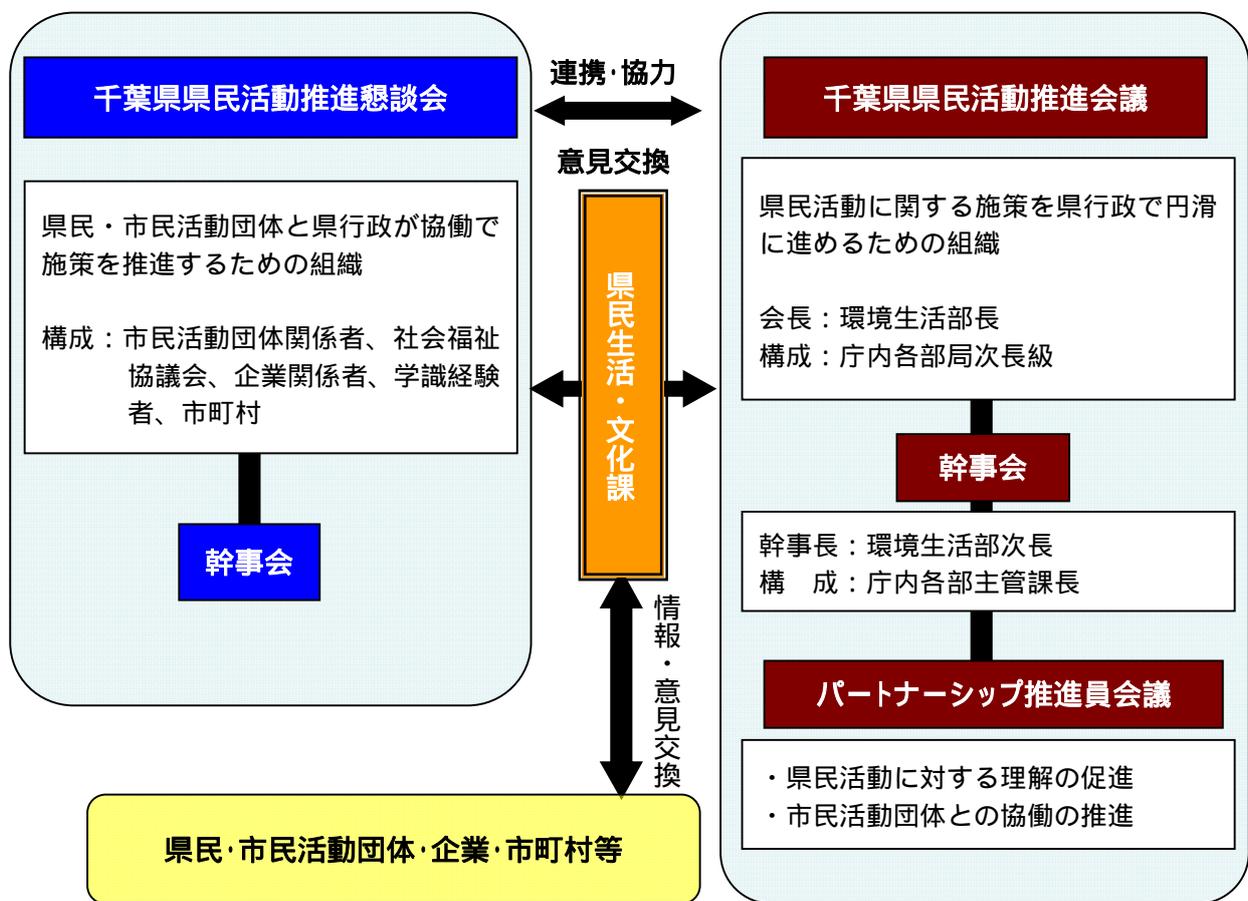
¹ 千葉県NPO法人実態調査結果(平成29年度)より

² 千葉県NPO・ボランティア関連事業一覧(平成29年度)及び県内市町村NPO・ボランティア関連事業一覧(平成29年度)より(千葉市は独自集計のため、件数に含まれていません。)

推進体制

千葉県県民活動推進懇談会設置要綱に基づき県民活動の推進に当たり、市民活動団体等、関係する各分野の立場からの意見や助言等を広く求めるため、外部委員で構成される「千葉県県民活動推進懇談会」と、県の横断的組織である「千葉県県民活動推進会議」を設置し、両者の連携・協力のもと、全庁的に計画を推進しています。

令和元年度 千葉県県民活動推進体制



1 千葉県県民活動推進懇談会（平成15年3月設置）

(1) 千葉県県民活動推進懇談会（資料1-1 千葉県県民活動推進懇談会委員名簿参照）

千葉県県民活動推進計画では、県民活動の推進に当たり、各分野の専門的な見地から幅広く意見や助言・協力等を求めるとともに、県民・市民活動団体と県行政が協働して事業を進めるため、千葉県県民活動推進懇談会を設置しています。

委員会は、有識者、市民活動団体関係者、社会福祉協議会、企業、市町村の関係者10名の委員で構成されています。〔令和元年度 2回開催〕

(2) 千葉県県民活動推進懇談会幹事会

県民活動の推進について具体的な検討などを行うため、必要に応じて、千葉県県民活動推進懇談会幹事会を設置しています。〔令和元年度 開催なし〕

2 千葉県県民活動推進会議（平成15年4月設置）

(1) 千葉県県民活動推進会議（資料1-2 千葉県県民活動推進会議委員名簿参照）

県民活動に関する施策を県行政で円滑に進めることを目的として、千葉県県民活動推進会議を設置しています。

環境生活部長を会長、各部の次長等を構成員とし、千葉県県民活動推進懇談会と協力し、市民活動団体及び推進計画に対する理解の促進、全庁的な取組などを推進しています。〔令和元年度 開催なし〕

(2) 千葉県県民活動推進会議幹事会（資料1-2 千葉県県民活動推進会議委員名簿参照）

推進会議の円滑な運営を図るため、推進会議の下に幹事会を設置しています。

環境生活部次長、各部主管課長等を構成員とし、推進会議から付議された事案を調査検討及び調整します。〔令和元年度 開催なし〕

(3) パートナーシップ推進員会議（資料1-3 パートナーシップ推進員会議構成課参照）

パートナーシップ型行政を推進するため、推進会議の下にパートナーシップ推進員会議を平成18年6月から設置しています。

市民活動団体・ボランティア関連事業（協働事業）を実施している庁内担当課職員及び各部主管課政策室担当職員を「パートナーシップ推進員」とし、パートナーシップ推進員会議を通して情報を共有し、各部署が共通の認識を持って連携協力を図りながら、庁内が一体となってパートナーシップ型行政を推進していきます。

〔令和元年度 2回開催〕

本 編

令和元年度実施事業の

概要及び実施結果

令和元年度実施事業の概要及び実施結果

令和元年度は、計画の中間年度として、4つの施策の方向性と9つの行動計画に沿って、以下のとおり事業を推進することとしました。

「1 県民活動への理解や参加の促進」については、多くの県民がボランティア活動への参加機会を得られるよう、引き続き活動体験の場と機会を提供するとともに、市民活動団体に役立つ情報や東京2020オリンピック・パラリンピックに関する情報など県民活動に関する情報の収集、発信を強化し、誰もが県民活動に参加しやすい環境整備に努めていきます。

「2 地域コミュニティを支える人材づくり」については、地域課題の解決を担える人材の育成を行うため、様々な分野での活躍の機会の創出やノウハウを学ぶ場づくりを行います。また、こうした人材をレガシーとして残すことで、地域の持続的な発展につなげていきます。

「3 市民活動団体等の基盤強化等の支援」については、市民活動団体等の活動が安定的、継続的に行われるよう、マネジメント能力の向上を目的とした講習会を行います。また、中間支援組織間ネットワークの連携強化や、スタッフのスキルアップのための研修会などを実施することにより、中間支援組織による市民活動団体の支援体制の充実を図るとともに、民が民を支える仕組みを支援します。

「4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進」については、協働に関する理解を深め、連携・協働のきっかけとなるよう、市民活動団体や行政、企業や学校など地域の様々な主体を対象に、各種研修会や交流会などを実施するほか、ちばコラボ大賞などの具体的な協働事例の情報発信を通して、連携・協働を推進していきます。

各事業の実施結果等は20ページ以降に示すとおりです。

千葉県県民活動推進計画 令和元年度実施事業一覧

施策の方向性	行動計画	No	事業名	再掲	担当所属
1 県民活動への理解や参加の促進	(1) 県民活動の普及啓発の推進	1	千葉県ホームページでの情報発信		県民生活・文化課
		2	NPO・ボランティア情報マガジンの配信		県民生活・文化課
		3	県民活動情報オフィスの運営		県民生活・文化課
		4	県民向け市民活動・ボランティア普及啓発		県民生活・文化課
		5	都市ボランティアの募集・運営		県民生活・文化課
		6	県民活動PR月間の実施		県民生活・文化課
		7	出前説明会等の実施		県民生活・文化課
		8	法人化説明会の実施		県民生活・文化課
		9	若い世代の参加促進を図る広報啓発と防犯ボランティア事業		警察本部生活安全総務課
		10	自主防犯ボランティア団体の普及及び協働・支援事業		警察本部生活安全総務課
	(2) 県民活動を体験する機会の提供	11	ボランティア活動への参加促進		県民生活・文化課
		12	ボランティアセンター・市民活動支援センター交流会の開催		県民生活・文化課
		13	#ちよいボラキャン		県民生活・文化課
		14	都市ボランティア体験プログラムの募集・運営		県民生活・文化課
		15	地域と連携した福祉教育の推進		健康福祉指導課
		16	ボランティア活動の振興(ボランティア振興事業)		健康福祉指導課
		17	高校生のためのボランティア体験講座		教育庁さわやかちば県民プラザ
		18	体験活動ボランティア活動入門講座		教育庁さわやかちば県民プラザ
		19	体験活動ボランティア活動実践講座		教育庁さわやかちば県民プラザ
		20	教育支援NPO・ボランティア等研究実践交流会		教育庁さわやかちば県民プラザ
		21	ちばっ子学び塾(ボランティア体験)		教育庁さわやかちば県民プラザ
2 地域コミュニティを支える人材づくり	(1) 様々な県民活動で活躍する人材づくり	22	次世代ボランティア人材育成事業		県民生活・文化課
		23	コーディネータースキルアップ講座		県民生活・文化課
		24	災害時外国人サポーター養成講座		国際課
		25	災害対策コーディネーターの養成		防災政策課
		26	災害対策コーディネータースキルアップ講座		防災政策課
		27	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)育成事業		健康福祉指導課
		28	千葉県生涯大学校における地域を担う人材の育成		高齢者福祉課
		29	我がまちシニア応援プロジェクト事業		高齢者福祉課
		30	元気高齢者活躍サポート事業		高齢者福祉課
		31	食生活改善推進員研修事業		健康づくり支援課
		32	がん検診推進員養成講習会事業		健康づくり支援課
		33	精神保健福祉ボランティア育成事業		障害者福祉推進課
		34	外国語による観光ボランティアガイド養成事業		観光企画課
		35	ちば食育ボランティアの活動支援		安全農業推進課
		36	地域とともに歩む学校づくり推進支援事業		教育庁生涯学習課
		37	放課後子供教室推進事業		教育庁生涯学習課
		38	「読み聞かせボランティア入門講座」の開催		教育庁中央図書館
		(2) 東京2020大会を契機とした人材づくりとレガシーの創出	39	都市ボランティアの募集・運営	(再掲)
40	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座			県民生活・文化課	
41	#ちよいボラキャン		(再掲)	県民生活・文化課	
42	都市ボランティア体験プログラムの募集・運営		(再掲)	県民生活・文化課	
43	通訳ボランティア養成事業			国際課	
3 市民活動団体等の基盤強化等	(1) 市民活動団体等の組織運営力等の向上支援	44	市民活動団体マネジメント事業		県民生活・文化課
		45	ボランティアセンター・市民活動支援センター交流会の開催	(再掲)	県民生活・文化課
		46	市民活動支援組織ネットワークによる中間支援組織の機能向上と連携強化		県民生活・文化課
(2) 中間支援組織の機能強化支援					
(3) 民が民を支える仕組みの普及・支援	47	民が民を支える仕組みの普及・支援		県民生活・文化課	
4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進	(1) 地域コミュニティにおける様々な主体の連携・協働の推進	48	協働によるコミュニティづくりの普及・促進		県民生活・文化課
		49	ちばコロボ大賞		県民生活・文化課
		50	千葉県男女共同参画フェスティバル		男女共同参画センター
		51	地域福祉フォーラムの設置・活動の促進		健康福祉指導課
		52	防犯ボックスを核とした地域防犯力・コミュニティ力向上事業		くらし安全推進課
		53	中小企業総合支援事業費補助金		産業振興課
		54	法人の森事業(法人の森協定)		森林課
		55	里山活動の支援		森林課
		56	若い世代の参加促進を図る広報啓発と防犯ボランティア事業	(再掲)	警察本部生活安全総務課
		57	自主防犯ボランティア団体の普及及び協働・支援事業	(再掲)	警察本部生活安全総務課
	58	千葉県警察学生サポーター「Ch.P.S.S」活動		警察本部少年課	
	59	少年補導員・少年指導委員活動		警察本部少年課	
	(2) 市民活動団体等と県行政・市町村行政の協働の推進	60	市町村と市民活動団体との連携促進事業		県民生活・文化課
		61	学校と市民活動団体との連携促進事業		県民生活・文化課
		62	県・市町村推進会議の開催		県民生活・文化課
		63	パートナーシップ推進員会議の開催		県民生活・文化課

各事業の概要及び実施結果の記載について

次頁以降では千葉県県民活動推進計画に位置付けられた事業を施策の柱ごとに整理し、施策の柱ごとの「事業の実施状況」、「成果指標」や、事業ごとの「事業名」、「事業概要」、「実施目標」、「評価」、「達成度」を記載しています。

施策の方向性

施策の方向性と、その実現のために必要なことを表しています。

< 各事業の概要及び実施結果 >

1 県民活動への理解や参加の促進

活動に対する関心が高まっている一方で参加につながっていないという現状等を踏まえながら、様々な形で広報・普及啓発を行うだけでなく、より多くの県民が参加機会を得られるよう、活動体験の場と機会の提供に努めます。

【事業の実施状況】

県民のボランティア活動への理解と参加の促進を図るため、ボランティア活動について理解を深めるとともに、体験の機会をつくる「ボランティア参加促進事業」を県内各地で実施しました。

また、多くの県民の主体的な参加を促す環境づくりとして、県民活動 PR 月間を活用した市町村等への広報支援やメールマガジン・ホームページでの情報発信などの普及啓発事業を行いました。

(1) 県民活動の普及啓発の推進

	事業名	事業概要	実施目標
1	千葉県ホームページでの情報発信 〔県民生活・文化課〕	県ホームページの特設サイト「千葉県 NPO・ボランティア情報ネット」において、NPO 法人情報及び県の NPO・ボランティア関連施策情報、民間団体からの助成情報等を掲載します。 また、ボランティア関連情報のページに、各種ボランティアの募集情報や東京オリンピック・パラリンピック関連情報、災害ボランティア関連情報等を掲載します。	「千葉県 NPO・ボランティア情報ネット」 関連ページビュー数 900,000 件
2	NPO・ボランティア情報マガジンの配信 〔県民生活・文化課〕	NPO・ボランティア活動関連の各種事業やイベントなどの情報を随時配信します。 また、ボランティア活動の参加を促す効果的な情報発信の方法について検討します。	年 24 回 (月 2 回) 配信

各事業の実施結果

各事業の実施結果を記載しています。見開き横一列で一つの事業の説明になっています。

【成果指標】

目標項目	現 状 (2 9 年 度)		H 3 0 年 度	R 元 年 度	R 2 年 度
[指標 1-1] 市民活動団体、ボランティア活動に関心がある人の割合	4 1 . 9 % ¹	目標	46.0%	50.0%	55.0%
		結果	45.1%	48.9%	
		目標比	-0.9p	-1.1p	
		前年比	+ 3.2p	+ 3.8p	
[指標 1-2] ボランティア活動に参加したことがある人の割合	3 3 . 9 % ¹	目標	36.0%	38.0%	40.0%
		結果	28.2%	43.6%	
		目標比	-7.8p	+5.6p	
		前年比	-5.7p	+15.4p	

1 第 5 4 回 県 政 に 関 す る 世 論 調 査 結 果 よ り

[達成度の考え方]

目標を達成 =
 目標を概ね (70%以上) 達成 =
 目標を未達成 =

成果指標

施策の柱ごとの成果を数値で表しています。

実施結果	評価	達成度
県ホームページ(「千葉県 NPO・ボランティア情報 ネット」関連ページ) ページビュー数 : 388,964 件 情報発信件数 民間団体等からの助成情報 90 件 千葉県が募集しているボランティア情報 22 件	ボランティア関連ページビュー数については、目標の達成ができなかったため、今後は関連ページへのリンクを掲載するなど、アクセスしやすいページづくりを心掛け、ページビュー数の増加に向けた工夫を行っていく必要があります。 また、今後も各種ボランティアに関する情報や民間団体等の助成情報等を随時更新していきます。	
配信回数 24 回 内容 : 研修会、イベント情報、助成金情報、ボランティア情報等 会員数 2,564 名	メールマガジンは月 2 回のペースで配信しており、目標を達成しました。 今後も引き続き、効果的な情報発信の方法について検討していきます。	

達成度

- ・ 目標を達成 =
- ・ 目標を概ね (70%以上) 達成 =
- ・ 目標を未達成 =

< 各事業の概要及び進捗状況 >

1 県民活動への理解や参加の促進

活動に対する関心が高まっている一方で参加につながっていないという現状等を踏まえながら、様々な形で広報・普及啓発を行うだけでなく、より多くの県民が参加機会を得られるよう、活動体験の場と機会の提供に努めます。

【事業の実施状況】

県民のボランティア活動への理解と参加の促進を図るため、ボランティア活動について理解を深めるとともに、体験の機会をつくる「ボランティア参加促進事業」を県内各地で実施しました。

また、多くの県民の主体的な参加を促す環境づくりとして、県民活動PR月間を活用した市町村等への広報支援やメールマガジン・ホームページでの情報発信などの普及啓発事業を行いました。

(1) 県民活動の普及啓発の推進

No.	事業名	事業概要	実施目標
1	千葉県ホームページでの情報発信 〔県民生活・文化課〕	県ホームページの特設サイト「千葉県NPO・ボランティア情報ネット」において、NPO法人情報及び県のNPO・ボランティア関連施策情報、民間団体からの助成情報等を掲載します。 また、ボランティア関連情報のページに、各種ボランティアの募集情報や東京オリンピック・パラリンピック関連情報、災害ボランティア関連情報等を掲載します。	「千葉県NPO・ボランティア情報ネット」関連ページビュー数 900,000件
2	NPO・ボランティア情報マガジンの配信 〔県民生活・文化課〕	NPO・ボランティア活動関連の各種事業やイベントなどの情報を随時配信します。 また、ボランティア活動の参加を促す効果的な情報発信の方法について検討します。	年24回(月2回)配信
3	県民活動情報オフィスの運営 〔県民生活・文化課〕	県庁本庁舎2階の「県民活動情報オフィス」において、NPO法人の縦覧及び閲覧、NPO法人の設立時の各種相談、NPO・ボランティア関連情報の提供、ミーティングルーム等の貸出等のサービスを提供します。	オフィス利用者 1,500名
4	県民向け市民活動・ボランティア普及啓発 〔県民生活・文化課〕	市民活動の基礎知識等を掲載したリーフレットや、各種普及啓発用グッズを様々な機会を捉えて配布し、県民活動の普及啓発を行います。	各種行事への出展 3回

【成果指標】

目標項目	現 状 (29年度)		H30年度	R元年度	R2年度
[指標1-1] 市民活動団体、ボランティア活動に関心がある人の割合	41.9% ¹	目標	46.0%	50.0%	55.0%
		結果	45.1%	48.9%	
		目標比	-0.9p	-1.1p	
		前年比	+3.2p	+3.8p	
[指標1-2] ボランティア活動に参加したことのある人の割合	33.9% ¹	目標	36.0%	38.0%	40.0%
		結果	28.2%	43.6%	
		目標比	-7.8p	+5.6p	
		前年比	-5.7p	+15.4p	

1 第54回県政に関する世論調査結果より

[達成度の考え方]
 目標を達成 =
 目標を概ね(70%以上)達成 =
 目標を未達成 =

結果	評価	達成度
アクセス件数 県ホームページ(「千葉県NPO・ボランティア情報ネット」関連ページ)ページビュー数:388,964件 情報発信件数 ・民間団体等からの助成情報:90件 ・千葉県が募集しているボランティア情報:22件	ボランティア関連ページビュー数については、目標の達成ができなかったため、今後は関連ページへのリンクを掲載するなど、アクセスしやすいページづくりを心掛け、ページビュー数の増加に向けた工夫を行っていく必要があります。 また、今後も各種ボランティアに関する情報や民間団体等の助成情報等を随時更新していきます。	
配信回数:24回 内容:研修会、イベント情報、助成金情報、ボランティア情報等 会員数:2,564名	メールマガジンは月2回のペースで配信しており、目標を達成しました。 今後も引き続き、効果的な情報発信の方法について検討していきます。	
オフィス利用状況 ・NPO法人等の各種相談:69件 ・情報検索等窓口対応:305名 ・電話問合せ等対応:359名 ・ミーティングスペース利用:978名 計 1,711名	県民活動情報オフィス利用者数は、目標を達成しました。 今後とも、オフィス機能の見直しや強化について検討するとともに、オフィスの利用促進に向けて、県ホームページや各種研修会等で広報を行っていきます。	
6/16 県民の日中央行事 参加者:約1,000名 10/20 エコメッセ 参加:約500名 12/9 CHIBA市場 参加:約300名 2/2 かまがや市民協働男女きらりフェスタ 参加:約50名	今までに出展のなかった行事に出展し、また、出展目標の3回を達成することができました。 次年度以降も市町村の市民活動フェスタ等への出展を検討していきます。	

1 県民活動への理解や参加の促進

No.	事業名	事業概要	実施目標
5	都市ボランティアの募集・運営 (県民生活・文化課)	東京2020大会開催時及びその前後の期間において、会場最寄駅や主要駅、空港などで本県を訪れる旅行者等に対して、交通案内や観光案内等の「おもてなし」を行う「都市ボランティア」を募集し、関係市町と連携し運営を行います。 さらに、東京2020大会に向けた取組を一過性のものとせず、醸成した機運や活動の継続などを県全域に波及させ、大会後のレガシー(持続的効果)として、ボランティア活動の更なる発展につなげることを目指します。	5エリアでの共通研修を実施します。 メルマガ配信5回
6	県民活動PR月間の実施 (県民生活・文化課)	NPO法施行日である12月1日前後の1カ月(11/23～12/23)を「ちば県民活動PR月間」とし、県民にNPO・ボランティア活動を知ってもらい、活動への参加に繋がるようなイベントを行う市町村や市民活動団体へ広報支援を行います。	ちば県民活動PR月間賛同行事 20件
7	出前説明会等の実施 (県民生活・文化課)	NPOやボランティアの基礎知識、県の施策状況などについての説明会を県内各地に赴き、実施します。	開催 15回
8	法人化説明会の実施 (県民生活・文化課)	NPO法人格の取得を検討している方を対象に、NPO法人制度や設立手続についての説明会を千葉市と共催で月1回開催します。 また、うち4回は夜間に開催します。	開催 12回
9	若い世代の参加促進を図る広報啓発と防犯ボランティア事業 (警察本部生活安全総務課)	自主防犯活動に意欲のある若い世代(県内の大学等に在籍、又は県内に在住、若しくは在勤する16歳以上30歳未満)により若手防犯ボランティアグループ「ブルー・スターズ」を結成し、自主防犯活動への参加・取組による若年層の防犯意識や規範意識の向上を図るほか、地域における絆の強化を図ります。 また、若年層等による自主防犯活動の一層の活性化のための広報啓発を実施します。	若い世代の防犯意識や規範意識の向上を図ります。

結果	評価	達成度
5エリアで計29回の共通研修を実施 (台風で2回、コロナで1回中止) メルマガ25回配信 Facebook投稿75回	共通研修では、Field castと同様のテキストによる「東京2020大会の概要」や「障害のある方への理解を深める内容」に加え、千葉県独自のテキスト・ハンドブックにより、千葉の観光・魅力発信や交通案内など、おもてなしについて学ぶ研修を実施しました。 メルマガも目標を大きく上回って配信することができました。	
市町村賛同行事:20件 市民活動団体賛同行事:3件	市町村及び市民活動団体に対し、ちば県民活動PR月間賛同行事の募集を行い、応募のあった団体に対して、千葉県HPへの掲載やPRグッズの提供等の広報支援を実施しています。 目標の20件を上回る、23件の行事に対して支援を行っており、今後も多くの賛同行事の応募に向けて広報に努めていきます。	
開催回数:9回	東京2020大会関連ボランティアの応募年を過ぎたことから、2018年度中に当該テーマで依頼のあった団体等からの申込が減少しました。 引き続き、オリンピック・パラリンピック以外にも、魅力的なテーマでの講座内容の企画及びPRに努めていきます。	
開催回数11回 参加60名 (内訳) 第1回(4/11)3名、第2回(5/9)0名 第3回(6/13)2名、第4回(7/11)7名 第5回(8/8)9名、第6回(9/12)4名 第7回(10/10)4名、第8回(11/14)7名 第9回(12/12)6名、第10回(1/9)6名 第11回(2/13)12名、第12回中止 (第2回は参加申込者0名でした。また、第12回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。)	月に1度開催しており、概ね目標を達成しました。 今後も、法人格取得を目指す人々の県民活動への理解・参加を促進するために、個別の相談にも随時対応し、法人化説明会等の内容を充実させていくことが必要です。	
(防犯キャンペーン及び研修会への「ブルー・スターズ」の参加回数と人数) 延べ17回51名、新規会員21名 ブルー・スターズ参加のキャンペーン等 ・密輸防止キャンペーン(成田市) ・ロックの日防犯キャンペーン(千葉市) ・電車内における痴漢防止キャンペーン(千葉市、鎌ヶ谷市、習志野市) ・薬物乱用防止キャンペーン(千葉市) ・警察ふれあいフェスタ(千葉市) ・第2回千葉県警察若手防犯ボランティア研修会(警察本部) ・地域防犯力の向上に関する交流大会(千葉市) ・歓楽街防犯対策パトロール(千葉市、松戸市等) ・イオンペットフェスにおけるわんわんパトロール啓発キャンペーン(千葉市) ・新春防犯キャンペーン(佐倉市) ・コンビニ防犯訓練(佐倉市)	県内各地で開催された防犯キャンペーン等に「ブルー・スターズ」の会員が参加したことにより、若年層の防犯意識や規範意識の向上が図られました。 若い世代の防犯ボランティア団体相互の交流を深め、各団体の活動の活性化と子供の見守り活動等への参画意識の高揚を図るため、「第2回千葉県警察若手ボランティア研修会」を開催し、生活安全部内が事務局をしている「ブルー・スターズ」(生活安全総務課)、「ChiPSS」(少年課)、「サイバーウォッチャー」(サイバー犯罪対策課)の3団体が参加しました。 自主防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進んでいることから、新規会員の加入促進を図るとともに、次世代のボランティアリーダーの育成、会員による自主的な運営、県内の他団体との交流を図ることが課題です。	

1 県民活動への理解や参加の促進

No.	事業名	事業概要	実施目標
10	自主防犯ボランティア団体の普及及び協働・支援事業 〔警察本部生活安全総務課〕	県内で活動する自主防犯ボランティア団体に対して、地域の防犯情報を提供するほか、警察官との合同パトロールを実施します。 その他、自主防犯ボランティアの活動の活性化を図るため、県下各署において、自主防犯パトロール隊や町会等を対象に防犯講話や情報交換会を開催します。 さらに、自主防犯ボランティアへの参加促進等を図るため、広報啓発活動を実施します。	防犯講話や情報交換を通じて、自主防犯活動団体に対する支援を推進します。

(2) 県民活動を体験する機会の提供

No.	事業名	事業概要	実施目標
11	ボランティア活動への参加促進 〔県民生活・文化課〕	県全体のボランティア活動の推進を図るため、活動体験等を通じた地域のボランティア活動への参加のきっかけづくりを行う事業を実施します。	2事業
12	ボランティアセンター・市民活動支援センター交流会の開催 〔県民生活・文化課〕	県社会福祉協議会等との連携のもと、市町村ボランティアセンターと市町村の市民活動支援センターのスタッフの研修及び情報共有の場として、研修会・交流会を開催します。	開催 2回 参加 各40名
13	#ちょいボラキャンペーン 〔県民生活・文化課〕	都市ボランティアに募集条件等で参加できない児童・生徒等に対して『ちょっとしたことでも「おもてなし(ボランティア)」はできる』ということを体験してもらい、「おもてなしの心」や「共生」などについて肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成することを目的としています。 本キャンペーンにより、児童・生徒の家族や親、友人、学校や各種団体等、多世代の様々な主体が関わるができる仕組みを実施することで、オール千葉でのおもてなしに寄与します。	#ちょいボラ 報告5件

結果	評価	達成度
警察官との合同パトロール 2,003件 防犯講話 5,599件 広報啓発キャンペーン 774件	合同パトロール、防犯講話等の実施により、自主防犯ボランティア団体の活動の活性化が図られました。 自主防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進んでおり、若い世代の参加促進を図ることが課題です。	

結果	評価	達成度
<p>企画提案による業務委託で実施 採択2団体</p> <p>NPO法人さすがーの宮 「着物体験でもてなそう！サーフィンのまち一宮、千葉と世界をつなぐおもてなしボランティア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期ボランティア講習会 参加73名 (7/25着物リメイク7名、8/3語学39名、着付け27名) ・着物体験プログラム 参加48名 (8/16ボランティア13名、参加10名、9/13ボランティア13名、参加12名、10/13中止) ・後期ボランティア講習会 参加48名 (2/2・着物リメイク15名、語学33名) <p>ディーブデモクラシー・センター 「チーボラ大作戦2019」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続講演会「希望をつくりだすのは、あなた。」 参加48名(11/3生活困窮者支援15名、11/16高齢者支援15名、11/17知的障がい者支援18名) 	<p>「着物体験でもてなそう！サーフィンのまち一宮、千葉と世界をつなぐおもてなしボランティア」では、オリンピック大会期間中、一宮町で日本文化のおもてなしを行うボランティアの育成講習会やイベントを実施することで、着付けや語学スキル等を活用したい方に対し、できることで参加するボランティアの機会を提供しました。なお、継続的にボランティア活動に参加した方が一定数(15%程度)いました。</p> <p>「チーボラ大作戦2019」では、ボランティア活動を始める動機づけを目的とした連続講演会を祝日や夜間に実施しました。働く世代が受講し、様々な分野で独自の社会課題に取り組む方々の講演により、社会課題解決を自分事として捉え、ボランティアへの意欲を高めることに寄与しました。</p>	
<p>9/9 第1回研修会・ボランティアコーディネーター研修会【基礎編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場：千葉県社会福祉センター ・講師：NPOクラブ副代表 勝又氏、NPO支援センターちば 事務局長 永田氏 ・参加9名 申込は36名。台風15号翌日の交通遮断による欠席者多数。 <p>2/12 第2回研修会・ボランティアコーディネーター研修会【災害編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場：千葉県経営者会館 ・講師：NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長 明城氏、NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李氏 ・参加33名 防災部署、福祉部署、中間支援組織含む 	<p>第1回は両センターにおいて重要になる地域の担い手育成、地域の多様な主体の場づくり、協働を促進する工夫点を学ぶ機会としました。</p> <p>第2回は台風15号以降の災害対応について行政・ボランティア・NPO等の三者連携を具体的に考えるため、防災部署、福祉部署、中間支援組織にも参加いただき、両センターの連携を考える機会としました。</p> <p>今後も両センターの交流や連携の契機となる場として開催していきます。</p>	
「#ちよいボラ」問合せ111件 報告 19件	イベント、広報媒体による周知により、多くの県民に参加いただくことができました。報告いただいた「おもてなし」体験を東京2020大会など様々なボランティア活動への参加意識の醸成につなげてまいります。	

1 県民活動への理解や参加の促進

No.	事業名	事業概要	実施目標
14	都市ボランティア体験プログラム の募集・運営 〔県民生活・文化課〕	東京2020大会において、募集条件等から都市ボランティアとして参加できない若い世代である生徒(中高生)などが、都市ボランティアへ参加・体験することで、「おもてなしの心」や「異文化交流」、「共生」について肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成します。 なお、活動エリアは千葉市・一宮町・成田市・成田空港とします。	都市ボランティア体験プログラム 募集500名
15	地域と連携した福祉教育の推進 〔健康福祉指導課〕	県民の福祉に対する理解と関心を深め、福祉活動への自発的な参加意欲を醸成するため、 ・小・中・高校を対象に福祉教育推進校を指定 ・福祉教育研究県大会及び福祉教育推進員養成研修を実施します。	新たな推進校の指定を行います。 福祉教育研究県大会の開催を行います。 福祉教育推進員養成研修の実施を行います。
16	ボランティア活動の振興 (ボランティア振興事業) 〔健康福祉指導課〕	ボランティア等の民間福祉活動の育成発展を図るため、各種ボランティア研修事業等を行う千葉県ボランティア・市民活動センターの運営や研修事業を補助します。	千葉県ボランティア市民活動センターの運営事業補助を行います。 研修事業補助(ボランティア・市民活動コーディネーター研修、リーダー研修、新たな担い手育成セミナー)を行います。
17	高校生のためのボランティア体験講座 〔さわやかちば県民プラザ〕	ボランティア活動に関心のある千葉県内の高等学校に在学している者を対象に、様々な分野のボランティアについての講義と演習を実施します。	開催日数 3日間 実習 7時間以上 3会場参加 計110名

結果	評価	達成度
募集実施(定員500名・応募2,194名)	県内の小中高校及び、公共施設等に募集について周知したことにより、定員を超える応募がありました。今後、活動に向けて準備を進めてまいります。	
令和元年度指定校 小学校9校、中学校6校、高等学校6校 福祉教育研究県大会 8/20開催 参加250名 福祉教育推進員養成研修 開催日 4/19, 7/31, 8/2, 8/20, 8/23 修了者 38名	新たな推進校の指定、福祉教育研究県大会の開催、福祉教育推進員養成研修の実施、いずれも目標を達成することができました。	
ボランティアリーダー研修(5回開催) 8/19開催 参加48名 8/26開催 参加38名 1/10開催 参加45名 1/24開催 参加22名 2/18開催 参加28名 合計 181名 ボランティアリーダーマネジメント研修 隔年開催により実施無し ボランティア・市民活動支援センター研修 9/9開催 参加9名 ボランティアコーディネーター研修 <精神編> 10/31開催 参加19名 <災害編> 2/12開催 参加33名 新たな担い手(大学生ボラ)セミナー 2/16開催 参加77名	左記研修について、適正に補助を実施することで、ボランティアの育成に寄与することができました。	
<p>柏会場:さわやかちば県民プラザ 6/9開催 参加53名(1ボランティア基礎 2ボランティア活動を考える 3活動計画作成) 7/15開催 参加51名(1児童保育ボランティア 2東京2020のボランティア 3福祉ボランティア体験 4活動計画作成) 9/22開催 参加31名(1国際ボランティア 2環境ボランティア 3体験活動交流会)</p> <p>東金会場:県立東金青年の家 6/22開催 参加25名(1ボランティア基礎 2福祉ボランティア体験 3活動計画作成) 6/23開催 参加25名(1児童保育ボランティア 2環境ボランティア 3ボランティア活動を考える 4活動計画作成) 9/29開催 参加19名(1国際ボランティア 2東京2020のボランティア 3体験活動交流会)</p> <p>小見川会場:県立小見川少年自然の家 6/15開催 参加13名(1ボランティア基礎 2ボランティア活動を考える 3活動計画作成) 6/16開催 参加13名(1児童保育ボランティア 2環境ボランティア 3福祉ボランティア体験 4活動計画作成) 9/23開催 参加11名(1国際ボランティア 2東京2020のボランティア 3体験活動交流会)</p>	<p>講座受講前と全講座受講後のボランティア感に大きな変容がありました。一般的なボランティアの固定観念(人助け、支援、介護)から「自分の為、難しく考えない、自分が楽しむ、自分自身の成長」といった考え方に変わりました。</p> <p>このことから、目標を十分達成することができました。</p>	

1 県民活動への理解や参加の促進

No.	事業名	事業概要	実施目標
18	体験活動ボランティア活動入門講座 〔さわやかちば県民プラザ〕	ボランティアを始めたいと思っている方や興味のある方を対象に、ボランティアの基本や身近にできるボランティアについて学ぶ講座を開催します。	開催 1回 参加 30名
19	体験活動ボランティア活動実践講座 〔さわやかちば県民プラザ〕	ボランティアの具体的な実践を学び合うことにより、ボランティア活動を効果的に進める実践力を向上させる講座を開催します。	開催 1回 参加 30名
20	教育支援NPO・ボランティア等研究実践交流会 〔さわやかちば県民プラザ〕	教育支援を行っているNPOやボランティア団体等を対象に、事例研究や講演を通し、資質向上や参加者間のネットワーク構築を図ります。	開催 1回 参加 100名
21	ちばっ子学び塾(ボランティア体験) 〔さわやかちば県民プラザ〕	ちば子ども大学事業で実施する講座のうちの1講座で、小学校4年生から6年生を対象に、ボランティア体験やボランティアノートの取組を通して、ボランティアへの意欲向上を図ります。	開催日数 2日間 参加 30名

結果	評価	達成度
<p>「ボランティアの基礎」 講師：興相寛氏(昭和女子大学) 会場：さわやかちば県民プラザ 参加：1名(一般) 高校生のボランティア体験講座(柏会場・高校生は53名が参加)と同時開催</p>	<p>実施目標には達しませんでした。受講生にとって、ボランティアは「誰のために、何の為にを行うのか」を考えるきっかけになりました。ボランティアに参加する意識付けとなりました。</p>	
<p>「子どもの体験活動の意義、プログラムの企画立案、運営上の留意点などを体験的に学ぶ」 講師：山本裕一氏(青山学院大学コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科) 会場：さわやかちば県民プラザ 参加：12名</p>	<p>実施目標には達しませんでした。企画担当者の思いを実現するための留意点から、受講者に新たな視点をもたらすとともに、架空の事業計画書作成を通じて、講義の目的である実践的技術の向上が図れました。</p>	
<p>2/29に実施予定でしたが、中止となりました。</p>	<p>2/29に実施予定でしたが、コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。</p>	-
<p>7/6 第1回 ボランティアとは、ボランティアノートの使い方、第2回のボランティア活動を考える 会場：さわやかちば県民プラザ 参加：6名 11/4 第2回 施設休所のため中止</p>	<p>実施目標には達しませんでした。ワークショップにより、それぞれの考えをたくさん出せるようになり、第2回に向けて主体的に活動する様子が見られました。第1回での目的は達成できました。</p>	

2 地域コミュニティを支える人材づくり

県民活動を通じた人材育成を促進するため、様々な分野での活動の機会の創出やノウハウを学ぶ場づくりを行います。併せて、東京2020大会を契機として共生社会を担う人材の育成を図ります。

【事業の実施状況】

次世代を担う若者に対し、「ボランティア精神」や「おもてなしの心」の醸成を図り、地域コミュニティを担う次世代のボランティア人材を効果的かつ持続的に育成するため、次世代ボランティア人材育成事業を実施しました。

また、東京2020大会開催期間等において、交通案内や観光案内などの「おもてなし」を行う「都市ボランティア」の募集を行うとともに、簡易な外国語を用いて道案内等の手助けを行うことができる人材の育成を目的とした「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成講座を開催しました。

(1) 様々な県民活動で活躍する人材づくり

No.	事業名	事業概要	実施目標
22	次世代ボランティア人材育成事業 (県民生活・文化課)	地域コミュニティを構成する様々な主体が、連携・協働しながら、地域を担う次世代のボランティア人材を、効果的かつ持続的に育成することを狙いとして、市民活動団体等から企画提案を募集しています。	市民活動団体等からの企画提案に沿った事業を実施します。
23	コーディネータースキルアップ講座 (県民生活・文化課)	市民活動支援センター、ボランティアセンタースタッフのコーディネーションスキル向上を目的としたセミナーを開催します。	開催 2回 参加 各40名

【成果指標】

目標項目	現 状 (29年度)		H30年度	R元年度	R2年度
[指標2-1] ボランティア活動に継続して 参加している人の割合	10.1% ²	目標	13.0%	16.5%	20.0%
		結果	8.9%	17.2%	
		目標比	-4.1p	+0.7p	
		前年比	-1.2p	+8.3p	

2 第54回県政に関する世論調査結果より

結果	評価	達成度
<p>(委託先)特定非営利活動法人生涯学習応援団ちば 業務名:2020ちばおもてなし隊 チャレンジステージ ~ 「参画」、「つながり」から「人づくりへ」~ 9/25 パラコネクト事業 参加:14名 11/23 日本文化体験 参加:11名 12/14 ボランティアトライアル2019 参加:131名 2/15 フォーラム2020 わたしたちのおもてなし 参加: 45名 ちばおもてなし隊「広場」(SNS)の開設</p>	<p>3団体からの応募があり、1団体を採択しました。 各事業を高校生、大学生が中心となり企画・運営し、障害者、外国観光客、留学生、自治体職員など様々な主体と交流し、次世代人材の育成を行いました。 (事業内容) 大学生と特別支援学校の生徒によるボランティア体験を行いました。 外国人観光客に日本文化を伝えることで交流を行いました。 留学生や外国人の親子と日本文化体験やパラスポーツ体験を通じて交流を図りました。 各活動を発表し、今後の“やってみたい”ボランティア活動について、県内自治体職員と共に考えました。 SNS(LINEat)を開設し、情報発信をすることで今までに関わりのなかった高校生の事業への参加が見られました。</p>	
<p>9/9 第1回研修会・ボランティアコーディネーター研修会【基礎編】 ・会場:千葉県社会福祉センター ・講師:NPOクラブ副代表 勝又氏、NPO支援センターちば 事務局長 永田氏 ・参加9名 申込は36名。台風15号翌日の交通遮断による欠席者多数。 2/12 第2回研修会・ボランティアコーディネーター研修会【災害編】 ・会場:千葉県経営者会館 ・講師:NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長 明城氏、NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李氏 ・参加33名 防災部署、福祉部署、中間支援組織含む</p>	<p>第1回は両センターにおいて重要になる地域の担い手育成、地域の多様な主体の場づくり、協働を促進する工夫点を学ぶ機会としました。 第2回は台風15号以降の災害対応について行政・ボランティア・NPO等の三者連携を具体的に考えるため、防災部署、福祉部署、中間支援組織にも参加いただき、両センターの連携を考える機会としました。 今後も両センターの交流や連携の契機となる場として開催していきます。</p>	

2 地域コミュニティを支える人材づくり

No.	事業名	事業概要	実施目標
24	災害時外国人サポーター養成講座 〔国際課〕	災害時における外国人支援として、外国語通訳や避難所での対応の仕方など外国人支援を行うサポーター養成講座を開催します。	開催 3回
25	災害対策コーディネーターの養成 〔防災政策課〕	地域の防災活動や災害時の支援活動において中心的な役割を担う「災害対策コーディネーター」など、地域の防災リーダーを養成する市町村の取組について、「千葉県地域防災力向上総合支援補助金」の活用等により支援します。	災害対策コーディネーターの増加を図ります。
26	災害対策コーディネータースキルアップ講座 〔防災政策課〕	災害対策コーディネーターが、広域的な連携・協力関係を築き、より実践的な防災知識を習得するため、災害対策コーディネータースキルアップ講座を開催します。	開催 1回
27	コミュニティソーシャルワーカー(CSW)育成事業 〔健康福祉指導課〕	地域福祉活動を担う方を対象とする「基礎研修」、社会福祉等に係る個別支援又は相談支援を担う方を対象とする「専門研修」、専門研修の修了者を対象とする「フォローアップ研修」を実施し、地域において活躍する人材の育成・スキルアップを図ります。	基礎研修 定員150名以上 複数回開催の場合は合計 専門研修 定員30名以上 複数回開催の場合は合計 フォローアップ研修 定員20名以上 複数回開催の場合は合計
28	千葉県生涯大学校における地域を担う人材の育成 〔高齢者福祉課〕	高齢者が地域の様々な問題解決に向け、専門性を身につけ、地域活動の担い手として活躍することができる人材を養成します。	入学者数の増加を図ります。
29	我がまちシニア応援プロジェクト事業 〔高齢者福祉課〕	介護予防や生活支援など高齢者の暮らしを支える地域福祉団体の機能強化を図るため、情報発信やマーケティング等の運営面で専門的なスキル・経験等を活かし活動を行うボランティア(プロボノワーカー)を派遣し、その取組を支援します。	支援団体 5団体
30	元気高齢者活躍サポート事業 〔高齢者福祉課〕	高齢者の社会参加を促し、高齢者が地域の担い手として活躍できるよう生活支援の担い手の養成等を行う事業に対し補助を行います。	養成人員 400名

結果	評価	達成度
(委託先)特定非営利活動法人 多文化共生マネージャー全国協議会 第1回(7/6開催) 会場:野田市内 参加:35名(外国人支援ボランティア)、7名(外国人) 第2回(11/7開催) 会場:千葉市内 参加:13名(市町村職員)、5名(外国人) 第3回(2/1開催) 会場:佐倉市内 参加:38名(外国人支援ボランティア)、8名(外国人)	実施目標を達成することができました。 今後も引き続き外国人支援ボランティアを養成できるよう、市町村と連携して事業を進めていきます。	
5市町において養成講座を実施し、新たに災害対策コーディネーターとして登録された方を含め、令和2年3月末時点の登録者数が1,445名となり、前年度末と比較し、149名の増加となりました。(実施市町村:市原市、木更津市、いすみ市、富津市及び大多喜町)	災害対策コーディネーターの登録者数は増加しており、目標を達成しています。	
3/23に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえ、中止としました。	3/23に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえ、中止としました。	-
基礎研修延べ受講者 181名 (実施数5回/実施予定数5回) 専門研修修了者 69名 (実施数5回/実施予定数5回) フォローアップ研修受講者 21名 (実施数1回/実施予定数1回)	年間の研修計画に沿って実施しています。 引き続き目標を達成できるよう、進めます。	
入学者18名増加 (令和2年度入学者 1,153名)	昨年度と比較して、入学者が18名増加し、定員充足率は1.2%増加の84.7%になりました。 今後も、学生ニーズ等を踏まえて、カリキュラムなどの見直しを図るとともに、効果的な広報等を検討していきます。	
プロボノワーカー16名で5団体の支援を終了	3年間で計13団体に対し支援を実施しました。(令和元年度で事業終了)	
養成人数 343人	13団体の採択で343人の養成を実施しました。 今後も、成果報告会等を開催し、事業の普及啓発を行います。	

2 地域コミュニティを支える人材づくり

No.	事業名	事業概要	実施目標
31	食生活改善推進員 研修事業 (健康づくり支援課)	地域で活動している食生活改善推進員(以下「推進員」という。)に対し、教育研修を開催し資質の向上を図るとともに、推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等を開催することによって県民の食生活の改善を推進します。	地域別研修の開催 14回 中央研修会の開催 1回400名 一般財団法人日本食生活協会が実施する研修会等への推進員の派遣 推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等の開催 103回
32	がん検診推進員育成 講習会事業 (健康づくり支援課)	各市町村の健康づくり推進員、保健推進員及び食生活改善推進員等に対し講習会を行い、「がん検診推進員」として育成し、これらの人材の協力を得て、各地域でがん検診の声かけ運動等を実施することにより受診率の向上を目指します。	年6回の講習会を開催し、「がん検診推進員」の増員を図ります。
33	精神保健福祉ボラン ティア育成事業 (障害者福祉推進 課)	現在活動中の「精神保健福祉ボランティア」及び「心の保健医療通訳ボランティア」を対象に、フォローアップ講座や研修会を開催します。(精神保健福祉センターにおいて実施)	精神保健福祉ボランティア フォローアップ講座の開催 を行います。 心の保健医療通訳ボラン ティア講座の開催を行いま す。

結果	評価	達成度
<p>地域別研修の開催 19回 中央研修会の開催 1回481名 一般財団法人日本食生活協会が実施する研修会等への推進員の派遣 14名 推進員や一般県民を対象とした各種料理教室等の開催 165回</p>	<p>開催回数、参加人数ともに目標を達成することができました。 減塩という共通テーマのもと、調理実習等を交え、実践的な知識・技術の習得ができました。若者世代や働く世代を対象とした講習会が少しずつ増えてきています。 次年度は県協議会に所属する市町が減りますが、継続して実施していきます。</p>	
<p>6ブロック中、6ブロックで開催 参加人数:208名</p>	<p>各ブロックごとに、地域性を考慮したテーマやがん種を選定し、早期発見につながるがん検診の重要性を啓発しています。 参加者に対して行ったアンケートでは、「講習会は声かけ運動をするための参考になったか」について「参考になった」と回答した割合が90%を超えており、声かけ運動につながる内容で講習会を実施できました。 今後もがん検診受診率向上のための取組を進めていきます。</p>	
<p>令和元年度精神保健福祉ボランティアフォローアップ講座 日時 10/31 10:00～15:30 会場 千葉県社会福祉センター 4階第1会議室 参加 29名 内容:午前の部 講義「傾聴基礎講座」 講師:NPO法人スピリッツ理事長下大園麻衣氏、理事石丸貴子氏 内容:午後の部 講義「中高年層のひきこもりの方との関わり方」 講師:NPO法人道草の家理事兼システム開発部長 江藤俊雄氏 講義「中高年のひきこもりの理解」 講師:千葉県精神保健福祉センター次長 石川真紀 心の保健医療通訳ボランティア講座 日時 2/25 13:30～16:00 会場 千葉市男女共同参画センター 参加 26名 内容: 講義1「精神科入院医療の流れと通訳」 講師 精神保健福祉センター長 林偉明 講義2「措置入院の流れと通訳依頼の流れ」 講師 精神保健福祉センター 調査研究課長 水野和佳子 講義3「入院した外国人事例へのソーシャルワークの実際」 講師 千葉県精神科医療センター 生活 療法科部長 灘紀英</p>	<p>精神保健福祉ボランティアフォローアップ講座の開催を行いました。本講座修了生は、地域の障害者支援機関の職員として就労している人も多くなり、今後参加者の増加は見込めないため、来年度は本講座単独での開催は行わない予定です。 心の保健医療通訳ボランティアについては、外国人の相談が増加しており、令和元年度実績について、通訳調整相談30件、そのうち通訳派遣12件と前年度(通訳相談調整6件、そのうち通訳派遣1件)に比べ急増しています。今後も通訳派遣のニーズが高まることが予想されます。</p>	

2 地域コミュニティを支える人材づくり

No.	事業名	事業概要	実施目標
34	外国語による観光ボランティアガイド養成事業 (観光企画課)	東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、外国人観光客へのおもてなしの向上と更なる誘客のため、県内における外国語による観光ボランティアガイドの充実を図ります。	魅力的な観光地づくりの担い手となる人材の育成を行います。
35	ちば食育ボランティアの活動支援 (安全農業推進課)	ちば食育ボランティアに対する基礎研修とスキルアップ研修を行います。(ちば食育ボランティア登録者数4,121名 平成31年3月末現在)	ちば食育ボランティア研修会 年度内開催2回 参加50名×2回
36	地域とともに歩む学校づくり推進支援事業 (生涯学習課)	学校と地域が連携して、地域コミュニティを構築し、地域の子供たちを地域で育てていくため、学習支援や環境整備、登下校時の見守りなど、地域と学校が連携・協働して行う活動や学習が遅れがちな中学生等を対象とした原則無料の学習支援など、地域学校協働活動を推進します。 そのため、地域学校協働活動推進員や協働活動サポーターを養成する研修会を開催します。	地域学校協働本部がカバーする小中学校の割合を平成30年度より上昇させます。(政令市・中核市は除く) H30実績:16市町158本部230校(カバー率26.8%) *学校の増減に影響されないように指標を「地域学校協働本部がカバーする小中学校の割合」に変更

結果	評価	達成度
<p>外国語観光ボランティアガイド養成講座開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアガイド講座 12/5 千葉経済大学 参加76名 ・外国語観光ボランティアガイド養成講座 2/3 松戸商工会議所 参加22名 2/13 佐原市中央公民館 参加20名 2/21 市原市市民会館 参加17名 <p>観光ボランティアガイド団体の広報・周知事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット「千葉県観光ボランティアガイド」内容を刷新し、関係団体へ配布。 	<p>例年実施していた計3回の研修(3地域で各1回)に加え、新たに観光ボランティアガイドを志す方を対象に、千葉市での講座を行いました。</p> <p>合計135名の参加者があり、受講者アンケートでも好評でした。</p> <p>また、外国語を併記した県内観光ボランティアガイドパンフレット(20,000部)及びホームページ掲載用データを作成しました。</p> <p>2020年はオリパラ当年度であり、これまで培った力を発揮する年であったことから、大会後における観光ボランティアガイド養成のあり方を検証する予定としていました。</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大会が1年程度延期になりましたが、観光ボランティアガイド養成のあり方に関する検証は変わらず行うこととします。</p>	
<p>8/22 第1回研修会(基礎研修)</p> <p>会場:千葉市生涯学習センター 参加:70名 内容:教えてちばの恵み、ちば食育ボランティアの活動報告、情報交換等</p> <p>11/14 第2回研修会(スキルアップ研修)</p> <p>会場:千葉市生涯学習センター 参加:73名 内容:ちば食育サポート企業の取組事例報告、「グーパー食生活」を楽しく実践しよう</p>	<p>目標を達成することができました。</p> <p>今後も、ちば食育ボランティアの活動を支援していきます。</p>	
<p>24市町226本部 328校を対象に実施 カバー率38.9% (うち、補助金活用16市町167本部242校(カバー率34.3%))</p>	<p>地域学校協働本部については、目標を達成することができました。</p> <p>今後は、未実施市町村等に対して本部の設置を呼びかけていきます。</p>	

2 地域コミュニティを支える人材づくり

No.	事業名	事業概要	実施目標
37	放課後子供教室推進事業 (生涯学習課)	すべての子供を対象として、放課後や土曜日等に小学校の余裕教室等を活用し、安全に配慮しながら地域住民の参画を得て、交流活動等に取り組むなど、心豊かで健やかな子供の育成を目指します。 そのため、コーディネーターや教育活動サポーターを養成する研修会を開催します。	放課後子供教室がカバーする小学校の割合を平成30年度より上昇させます。(政令市・中核市は除く) H30実績:31市町232校で実施、カバー率35.2% * 学校の増減に影響されないように指標を「放課後子供教室がカバーする小学校の割合」に変更
38	「読み聞かせボランティア入門講座」の開催 (中央図書館)	絵本の読み聞かせについての講演及び参加者による実演と講師のアドバイス等を行い、読書の重要性や本の選び方、読み聞かせの方法など、実践に役立つスキルを学ぶ講座を実施します。	開催2回 参加80名

(2) 東京2020大会を契機とした人材づくりとレガシーの創出

No.	事業名	事業概要	実施目標
39 再掲	都市ボランティアの募集・運営 (県民生活・文化課)	東京2020大会開催時及びその前後の期間において、会場最寄駅や主要駅、空港などで本県を訪れる旅行者等に対して、交通案内や観光案内等の「おもてなし」を行う「都市ボランティア」を募集し、関係市町と連携し運営を行います。 また、東京2020大会に向けた取組を一過性のものとせず、醸成した機運や活動の継続などを県全域に波及させ、大会後のレガシー(持続的効果)として、ボランティア活動の更なる発展につなげることを目指します。	5エリアでの共通研修の実施を行います。 メルマガ配信5回
40	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座 (県民生活・文化課)	東京2020大会の本県での開催に向け、簡易な外国語を用いて道案内等の手助けを行うことができる人材の育成を目的に、「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成講座を開催し、外国人観光客等が安心して千葉県に滞在できる環境を整えます。	おもてなしコース 3回開催 セットコース 3回開催 フォローアップコース 2回開催

結果	評価	達成度
31市町、205校、250教室を対象に実施 カバー率35.8%	放課後子供教室については、目標を達成 できました。 今後は、未実施市町村等に対して、教室 の設置を呼びかけていきます。	
9/26 読み聞かせボランティア入門講座 テーマ「絵本 の読み聞かせ 選び方と読み方の実践」 講師:小谷孝子氏、東ひろみ氏(船橋市・南房総市 ゆ か下文庫) 会場:長南町中央公民館 参加:25名 1/30 読み聞かせボランティア入門講座 テーマ「絵本 の読み聞かせ 選び方と読み方の実践」 講師:入交静氏(にんじん文庫) 会場:多古町コミュニティプラザ 参加:29名	1回目、2回目ともアンケートの結果、内容 は好評でしたが、近隣の方の参加が主となり ました。 今後は、より幅広く参加いただけるよう、開 催地や時期を検討していきます。	

結果	評価	達成度
5エリアで計29回の共通研修を実施。(台風で2回、コロ ナで1回中止) メルマガ25回配信 Facebook75回投稿	共通研修では、Field castと同様のテキスト による「東京2020大会の概要」や「障害のある 方への理解を深める内容」に加え、千葉県 独自のテキスト・ハンドブックにより、千葉の 観光・魅力発信や交通案内など、おもてなし について学ぶ研修を実施しました。 メルマガも目標を大きく上回って配信する ことができました。	
おもてなしコース5回(うち学生限定2回) 四街道市54名・南房総市34名・市川市56名・城西国際 大27名・麗澤大20名 セットコース 3回 山武市39名・柏市30名・習志野市35名 フォローアップコース 2回 成田市23名・千葉市233名	おもてなしコース・セットコースについて、 8/31まで計8回開催し、計295名のボラン ティアを育成することができました。 フォローアップコースについては、第1回 は語学のフォローアップ、第2回はおもてなし の心のフォローアップを行い256名のボラン ティアのスキルアップすることができました。	

2 地域コミュニティを支える人材づくり

No.	事業名	事業概要	実施目標
41 再掲	#ちよいボラキャン ペーン (県民生活・文化課)	都市ボランティアに募集条件等で参加できない児童・生徒等に対して『ちょっとしたことでも「おもてなし(ボランティア)」はできる』ということを体験してもらい、「おもてなしの心」や「共生」などについて肌で感じ、その後の様々なボランティアやその他活動への参加意識を醸成することを目的としたキャンペーンを展開しています。 本キャンペーンにより、児童・生徒の家族や親、友人、学校や各種団体等、多世代の様々な主体が関わることができる仕組みを実施することで、オール千葉でのおもてなしに寄与します。	#ちよいボラ 報告5件
42 再掲	都市ボランティア体験プログラムの募集・運営 (県民生活・文化課)	東京2020大会において、募集条件等から都市ボランティアとして参加できない若い世代である生徒(中高生)などが、都市ボランティアへ参加・体験することで、「おもてなしの心」や「異文化交流」、「共生」について肌で感じ、その後の様々なボランティア活動への参加意識を醸成します。(千葉会場・一宮会場・成田市内・成田空港の各エリアで活動します。)	都市ボランティア体験プログラム 募集500名
43	通訳ボランティア養成事業 (国際課)	東京オリンピック・パラリンピック大会の開催に伴い、海外から多くの方が本県を訪れることが見込まれることから、外国人へのおもてなしの充実に向けて、英語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、通訳ボランティアの養成研修を実施します。	4講座

結果	評価	達成度
「#ちよいボラ」問合せ111件 報告 19件	イベント、広報媒体による周知により、多くの県民に参加いただくことができました。 報告いただいた「おもてなし」体験を東京2020大会など様々なボランティア活動への参加意識の醸成につなげてまいります。	
募集実施(定員500名・応募2,194名)	県内の小中高校及び、公共施設等に募集について周知したことにより、定員を超える応募がありました。 今後、活動に向けて準備を進めてまいります。	
委託先:(公財)ちば国際コンベンションビューロー 第1回千葉市(8/31、9/7)、第2回千葉市(9/28、10/5)、第3回東金市(10/24、10/31)、第4回市川市(11/13、11/20) 4講座合計で111名が修了(英語111名)	実施目標を達成することができました。 受講された方に対し、東京オリンピック・パラリンピックに向けてボランティアスキルを維持できるよう、活動機会が提供できるように努めます。	

3 市民活動団体等の基盤強化等の支援

市民活動団体等の抱える人材面、資金面の課題に対して適切な支援を行うことのできる中間支援組織の支援や民が民を支える仕組みの普及を通じて、団体が持続的に活動できる環境整備に向けた基盤強化等を図ります。

【事業の実施状況】

市民活動団体等の基盤強化等の支援について、市民活動団体の運営能力の向上に向けたセミナーを実施しました。実施に当たっては、ニーズや課題意識に合った内容とするため、中間支援組織に委託して実施しました。

また、中間支援組織の機能向上と連携強化を図る支援組織同士のネットワーク会議を実施し県内の中間支援組織の情報交換の場としたほか、テーマごとのワークショップとして「作業部会」を開催し、ノウハウの共有を図りました。

(1) 市民活動団体等の組織運営力等の向上支援

No.	事業名	事業概要	実施目標
44	市民活動団体マネジメント事業 (県民生活・文化課)	市民活動団体が安定的・継続的に活動していくために必要な運営能力の向上を図るため、市町村と共催で市民活動団体マネジメント講座を実施します。	開催 6回

3 市民活動団体等の基盤強化等の支援

【成果指標】

目標項目	現 状 (29年度)		H30年度	R元年度	R2年度
[指標3-1] 市民活動団体の活動へ参加(活動・寄附・支援)している人の割合	32.8% ¹	目標	34.0%	35.5%	37.0%
		結果	28.3%	31.6%	
		目標比	-5.7p	-3.9p	
		前年比	-4.5p	+3.3p	
[指標3-2] 寄附を受けたことがあるNPO法人の割合	59.4% ²	目標	60.0%	60.0%	60.0%
		結果	56.5%	54.2%	
		目標比	-3.5p	-5.8p	
		前年比	-2.9p	-2.3p	

1 第54回県政に関する世論調査結果より

2 千葉県NPO法人実態調査結果より

結果	評価	達成度
<p>受託団体：認定NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 10/5、10/31事務力集中セミナー 講師：全国NPO事務支援カンファレンス認定講師 鍋嶋洋子、風間文子 会場：千葉市内、柏市内 受講：23名、28名 11/12NPOの日常会計処理 講師：加藤 達郎(加藤達郎税理士事務所所長) 会場：柏市内 受講：27名 12/4NPOの労務 講師：石井 敏則(社会保険労務士) 会場：船橋市内 受講：38名 2/8 さよなら共助社会 社会課題解決ではないNPOの本来の役割を確認しよう 講師：松原 明(認定特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度を作る会副代表) 会場：柏市内 受講：46名 2/13 総会準備講座 NPO法人の決算、年度末処理 講師：豊岡 正広(税理士、NPO法人NPO支援の税理士ネットワーク理事長) 会場：船橋市内 受講：37名 1月～2月団体個別支援「出かけてサポート」 講師：ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 会場：各団体の事務所等 受講：6団体</p>	<p>中間支援組織に委託して実施しています。実施に当たっては、双方の知見やノウハウを活かした展開としています。例えば、受託団体の企画力、県の持つ広報ルートを活用などを併せることで、相乗効果を生み出しています。</p>	

3 市民活動団体等の基盤強化等の支援

(2) 中間支援組織の機能強化支援

No.	事業名	事業概要	実施目標
45 再掲	ボランティアセンター・市民活動支援センター等交流会の開催 〔県民生活・文化課〕	県社会福祉協議会等との連携のもと、市町村ボランティアセンターと市町村の市民活動支援センターのスタッフの研修及び情報共有の場として、研修会・意見交換会を開催します。	開催 2回 参加 各40名
46	市民活動支援組織ネットワークによる中間支援組織の機能向上と連携強化 〔県民生活・文化課〕	市民活動支援組織の機能向上及び連携強化のため、県内の主要な市民活動支援組織の関係者を構成員とする「千葉県市民活動支援組織ネットワーク」を運営し、支援組織に必要とされるノウハウや知識を習得するための研修を実施します。	ネットワーク会議等の開催 4回

(3) 民が民を支える仕組みの普及・支援

No.	事業名	事業概要	実施目標
47	民が民を支える仕組みの普及・支援 〔県民生活・文化課〕	「民が民を支える仕組み構築モデル事業」(H23～24)において構築された仕組みについて、県が実施するイベントや県ホームページ等において周知・PRするほか、運営主体との情報交換や意見交換を行うなど、協力することで、仕組みの活用促進を図ります。	運営主体との情報交換の場を設けます。

3 市民活動団体等の基盤強化等の支援

結果	評価	達成度
<p>9/9 第1回研修会・ボランティアコーディネーター研修会〔基礎編〕 会場：千葉県社会福祉センター 講師：NPOクラブ副代表 勝又氏、NPO支援センターちば 事務局長 永田氏 参加者9名 台風15号翌日の交通遮断による欠席者あり。申込者は36名。</p> <p>2/12 第2回研修会・ボランティアコーディネーター研修会〔災害編〕 会場：千葉県経営者会館 講師：NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長 明城氏、NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李氏 参加者33名 防災部署、福祉部署、中間支援組織含む</p>	<p>第1回は両センターにおいて重要になる地域の担い手育成、地域の多様な主体の場づくり、協働を促進する工夫点を学ぶ機会としました。</p> <p>第2回は台風15号以降の災害対応について行政・ボランティア・NPO等の三者連携を具体的に考えるため、防災部署、福祉部署、中間支援組織にも参加いただき、両センターの連携を考える機会としました。</p> <p>今後も両センターの交流や連携の契機となる場として開催していきます。</p>	
<p>10/8 第1回幹事会 会場：県民活動情報オフィス 参加：13名 12/6 第1回防災作業部会 会場：県民活動情報オフィス 参加：9名 12/6 第1回人財作業部会 会場：県民活動情報オフィス 参加：6名 1/27 第1回全体会 会場：千葉商工会議所 参加：37名</p>	<p>例年通り、市民活動を支援する主体でネットワークを形成し、幹事会で企画した研修会を全体会で実施しました。</p> <p>全体会では、昨年発生した台風15号等災害を鑑み、「災害時のNPO・中間支援組織の役割」をテーマとし、ネットワーク加盟団体の台風15号等災害における支援活動の事例発表および(特非)岡山NPOセンター石原代表理事による講演・ワークショップを実施しました。</p> <p>また、本年度より特定のテーマについて深く調査研究を行う作業部会の設置を可能とし、市民活動の分野で特に重要である「防災」と「(中間支援)人財」の二つの分野で作業部会を行いました。次年度以降もこれを継続していきます。</p>	

結果	評価	達成度
<p>休眠預金等活用制度が開始するため、制度周知のチラシ作成、メルマガ等の広報を実施。</p> <p>休眠預金等活用制度周知と多額の資金を運用できる組織基盤強化支援として事業や組織評価のセミナーを開催。</p> <p>寄付月間2019の賛同パートナーとして、寄付をテーマとしたセミナーを2月に開催。</p>	<p>休眠預金等活用制度の情報を県HPやメルマガ等で随時発信しながら、応募の有無に関わらず、組織基盤強化につながるテーマでセミナーを開催しました。</p> <p>引き続き、休眠預金の情報は収集しながら、必要な団体支援を精査していきます。</p>	

4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

行政、中間支援組織、市民活動団体、地縁団体、社会福祉協議会、学校、企業など多様な主体が連携・協働して行う地域の課題解決に向けた取組や仕組みづくりへの支援、県行政と市町村行政の間の情報共有などによる協働の推進を図ります。

【事業の実施状況】

地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働を促進するため、県内の優良な連携事例を表彰する「ちばコラボ大賞」を実施しました。

また、「協働によるコミュニティづくりの普及・促進」では、講義やワークショップに加え、市民活動団体、行政、企業、公益法人等が意見交換を行う交流会なども開催し、交流を通して様々な主体が地域のことを一緒に考える機会を提供できました。ほか、教職員を対象にした協働推進のための各種研修等を行うなど、地域の様々な主体の連携の促進に取り組みました。

(1) 地域コミュニティにおける様々な主体の連携・協働の推進

No.	事業名	事業概要	実施目標
48	協働によるコミュニティづくりの普及・促進 (県民生活・文化課)	過去に県が支援した協働による取組が行われていない地域等を対象に、市町村と地縁団体、市民活動団体、企業等が、協働による取組を検討する契機となるよう、有識者による講演や優良事例の共有等を行います。 また、各地で活動を行っている主体が、地域を超えた連携・協働につながる契機となるような意見交換会を実施します。	研修会及び意見交換会の実施 それぞれ県内3地域
49	ちばコラボ大賞 (県民生活・文化課)	市民活動団体が地縁団体、社会福祉協議会、学校・大学、企業、行政機関等と連携(コラボレーション)して、それぞれの特性を活かしながら地域社会の課題解決に取り組んでいる事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例に取り組んでいる団体を表彰し、広く県民に周知することにより、連携による地域づくりの促進を図ります。	応募件数 15件以上 (平成30年度13件) 表彰事例 3事例 (平成30年度3事例)

【成果指標】

目標項目	現 状 (29年度)		H30年度	R元年度	R2年度
[指標4-1] 地域の様々な主体と連携している市民活動団体の割合	69.8% ¹	目標	70.0%	71.0%	72.0%
		結果	66.0%	66.7%	
		目標比	-4.0p	-4.3p	
		前年比	-3.8p	+0.7p	
[指標4-2] 市町村行政・県行政と市民活動団体との協働事業の件数	615件 ²	目標	625件	635件	650件
		結果	635件	632件	
		目標比	+10p	+3p	
		前年比	+20p	-3p	

1 千葉県NPO法人実態調査結果より

2 千葉県NPO・ボランティア関連事業一覧、県内市町村NPO・ボランティア関連事業一覧より
(千葉市は独自集計のため、件数に含まれていません。)

結果	評価	達成度
<p>7/20 安房地域:「これからの地域づくりに何が 必要か～協働の必要性について～」 会場:館山市コミュニティセンター 参加:78名 7/23 千葉地域:「休眠預金等活用から考える、 民間公益活動」 会場:千葉市幕張勤労市民プラザ 参加:34名 1/20 山武地域:「今こそ考える、地域をつなげ る役割」 会場:大網白里市保健文化センター 参加54名 1/31 香取地域:「協働の心構え」 会場:香取市役所 参加:39名 2/10 東葛地域:「相互理解が生み出す”継続 寄附”」 会場:まつど市民活動サポートセンター 参加: 21名</p> <p>【中止】 11/21 安房地域:「次世代と共に地域をつく る!これからの“参加”の仕組みを考えよう」 2/21 葛南地域:「SDGsを合言葉に!NPOと 企業の連携を考える～」</p>	<p>事業実施にあたっては、研修会と意見交換会の区 分を設けずに実施しました。全7回の開催準備をし ていましたが、台風やコロナウィルスの影響で2回は 開催ができませんでした。来年度の実施に向け調整 していきます。</p> <p>セミナー開催にあたっては、地域ごとの課題に応じ たテーマ設定とし、セミナー開催前に地域の担当課 職員での意見交換の場を設ける等、セミナー後の波 及効果を高められるよう運営しています。</p> <p>また、休眠預金や寄附等、県として発信すべき テーマについてもセミナーを開催しました。</p> <p>今後も、地域での協働が進む運用方法を検討して いきます。</p>	
<p>応募件数 7件 表彰事例 3事例</p>	<p>応募件数については目標には至らなかったもの の、7件の応募の中、3事例を選考しました。</p> <p>表彰式では、表彰団体による事例発表も併せて開 催し、参加者は84名でした。</p> <p>今後は募集段階における広報の方法の見直し等 を行いながら応募件数の増加を図り、また、各市町 村の協働の実態に即して適宜内容を改善していく 必要があります。</p>	

4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

No.	事業名	事業概要	実施目標
50	千葉県男女共同参画フェスティバル (男女共同参画センター)	本県の男女共同参画社会づくりに向けた機運を高めるため、県民が男女共同参画への理解を深める機会とするとともに、男女共同参画に取り組む民間団体と県民の交流の場を提供する「千葉県男女共同参画フェスティバル」を開催します。 フェスティバルの内容 ・企画運営委員会(ボランティア)の設置 ・講演会の開催 ・ワークショップの開催	開催 1回
51	地域福祉フォーラムの設置・活動の促進 (健康福祉指導課)	地域住民が、社会福祉協議会や民生委員・児童委員、NPO等地域福祉の担い手、更には福祉以外の各分野の人たちと協働して、地域における福祉等のあり方・取組みを考えていく組織である「地域福祉フォーラム」の設置を促進します。	新規設置数 基本 5箇所 小域 20箇所
52	防犯ボックスを核とした地域防犯力・コミュニティ力向上事業 (くらし安全推進課)	防犯ボックスのさらなる普及に向け、住民に最も身近な市町村が主体となり設置する防犯ボックスの初期費用や運営費について、助成します。 また、平成27年度までに県が設置した千葉市、柏市、船橋市の計3箇所の防犯ボックスについて、県が引き続き運営します。	助成実施 3市町村
53	中小企業総合支援事業費補助金 (産業振興課)	地域資源(中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律に基づき千葉県知事が指定した地域産業資源)を活用した新商品・新サービス等の開発を行う中小企業者等への補助を行います。	地域資源を活用して新商品・新技術等を開発・事業化に取組む中小企業者等を支援し、地域の特性を生かした地域産業の振興を図ります。
54	法人の森事業(法人の森協定) (森林課)	社会貢献や環境活動を希望する企業や団体に対し、県有林の一部を「法人の森」として提供することで、CSR活動としての森林整備活動・森林環境教育活動をサポートします。	事業PR(ホームページ他)を行います。 協定締結 2件
55	里山活動の支援 (森林課)	景観維持や県土保全等の里山の持つ多面的機能を持続的に発揮するため、地域住民や企業、里山活動団体等の多様な人々の参画による森林整備活動が促進されるよう支援します。	里山活動団体や企業が整備・保全する森林面積を増やします。

結果	評価	達成度
<p>1/19 千葉県男女共同参画フェスティバル 会場:千葉県生涯学習センター ・講演会「笑門には福来たる! ~いつの世も男女は支え合って生きている~」 講師:柳家 三之助氏(落語家) 参加:220名 ・ワークショップ(6団体) 参加:276名 参加合計:496名</p>	<p>参加者にとって利便性の高い会場で開催することに加え、より幅広い年齢層の県民の参加を得られるよう工夫していきます。</p>	
<p>新規設置数 基本 0箇所 小域 6箇所</p>	<p>令和元年度は、市町村等実施主体となりうる者から設置希望が少なかったため、目標には至りませんでした。 引き続き、社会福祉法人千葉県社会福祉協議会において、地域福祉活動計画の研修等、様々な機会に関係者への周知を図り、フォーラム設置を進めていきます。</p>	
<p>6/19補助金交付決定(市川市下貝塚地区) 9/26補助金交付決定(市川市北国分地区) 11/29補助金交付決定(木更津市)</p>	<p>令和元年7月及び11月に市川市が運用を開始、令和2年4月に木更津市が運用を開始しました。 引き続き、県内への防犯ボックスの普及に取り組んでいきます。</p>	
<p>応募件数 2件 採択 2件</p>	<p>審査基準に基づき審査を行った結果、2件の採択となりました。</p>	
<p>事業PR ・10/20 エコメッセ2019inちば出展 会場:幕張メッセ ・12/5~7エコプロ2019出展 会場:東京ビッグサイト ・県HPに新規協定候補地掲載 協定締結 新規2件</p>	<p>協定締結について、目標達成しています。 引き続き事業PRに努めてまいります。</p>	
<p>多様な主体による森林整備活動への参画や協働を支援するための総合窓口を設置(NPO法人に業務委託)し、各種相談対応等を行いました。 窓口相談件数 80件 安全講習会 2回開催 参加:105名 森林整備ボランティア団体のリーダー養成講座 1回開催 参加:21名 広報紙発行 2回</p>	<p>引き続き、多様な主体による森林整備活動への参画や協働を支援するための総合窓口の運営に協力し、事業の効果的な推進に努めてまいります。</p>	

4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

No.	事業名	事業概要	実施目標
56 再掲	若い世代の参加促進を図る広報啓発と防犯ボランティア事業 〔警察本部生活安全総務課〕	自主防犯活動に意欲のある若い世代(県内の大学等に在籍、又は県内に在住、若しくは在勤する16歳以上30歳未満)により若手防犯ボランティアグループ「ブルー・スターズ」を結成し、自主防犯活動への参加・取組による若年層の防犯意識や規範意識の向上を図るほか、地域における絆の強化を図ります。 また、若年層等による自主防犯活動の一層の活性化のための広報啓発を実施します。	若い世代の防犯意識や規範意識の向上を図ります。
57 再掲	自主防犯ボランティア団体の普及及び協働・支援事業 〔警察本部生活安全総務課〕	県内で活動する自主防犯ボランティア団体に対して、地域の防犯情報を提供するほか、警察官との合同パトロールを実施します。 その他、自主防犯ボランティアの活動の活性化を図るため、県下各署において、自主防犯パトロール隊や町会等を対象に防犯講話や情報交換会を開催します。 さらに、自主防犯ボランティアへの参加促進等を図るため、広報啓発活動を実施します。	防犯講話や情報交換を通じて、自主防犯活動団体に対する支援を推進します。
58	千葉県警察学生サポーター「ChiPSS」活動 〔警察本部少年課〕	非行少年を生まない社会づくりの推進事業の一環として、少年の非行問題に関心があり、熱意と行動力を有する大学生を「千葉県警察学生サポーター」に委嘱(募集人員40人)し、警察、学校、地域と協働して、学習・スポーツ支援、居場所づくり等の立ち直り支援、街頭補導等の非行防止活動や健全育成活動を実施します。	少年の非行防止や健全育成活動を推進します。
59	少年補導員・少年指導委員活動 〔警察本部少年課〕	少年の非行防止及び健全育成を図るため、「少年警察ボランティア」を委嘱し、地域住民と協働した街頭補導活動や環境浄化活動を推進します。	街頭補導活動や環境浄化活動を推進します。

結果	評価	達成度
<p>(防犯キャンペーン及び研修会への「ブルー・スターズ」の参加回数と人数) 延べ17回51名、新規会員21名 ブルー・スターズ参加のキャンペーン等 ・密輸防止キャンペーン(成田市) ・ロックの日防犯キャンペーン(千葉市) ・電車内における痴漢防止キャンペーン(千葉市、鎌ヶ谷市、習志野市) ・薬物乱用防止キャンペーン(千葉市) ・警察ふれあいフェスタ(千葉市) ・第2回千葉県警察若手防犯ボランティア研修会 (警察本部) ・地域防犯力の向上に関する交流大会(千葉市) ・歓楽街防犯対策パトロール(千葉市、松戸市等) ・イオンペットフェスにおけるわんわんパトロール啓発キャンペーン(千葉市) ・新春防犯キャンペーン(佐倉市) ・コンビニ防犯訓練(佐倉市)</p>	<p>県内各地で開催された防犯キャンペーン等に「ブルー・スターズ」の会員が参加したことにより、若年層の防犯意識や規範意識の向上が図られました。 若い世代の防犯ボランティア団体相互の交流を深め、各団体の活動の活性化と子供の見守り活動等への参画意識の高揚を図るため、「第2回千葉県警察若手ボランティア研修会」を開催し、生活安全部内が事務局をしている「ブルー・スターズ」(生活安全総務課)、「ChiPSS」(少年課)、「サイバーウォッチャー」(サイバー犯罪対策課)の3団体が参加しました。 自主防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進んでいることから、新規会員の加入促進を図るとともに、次世代のボランティアリーダーの育成、会員による自主的な運営、県内の他団体との交流を図ることが課題です。</p>	
<p>警察官との合同パトロール 2,003件 防犯講話 5,599件 広報啓発キャンペーン 774件</p>	<p>合同パトロール、防犯講話等の実施により、自主防犯ボランティア団体の活動の活性化が図られました。 自主防犯ボランティア団体の構成員の高齢化が進んでおり、若い世代の参加促進を図ることが課題です。</p>	
<p>「ChiPSS」委嘱状況 34名 「ChiPSS」活動状況 延べ111回、183名 (内訳) 街頭補導活動 45回、75名 広報啓発活動 22回、27名 学習・スポーツ支援活動 20回、20名 居場所づくり 4回、17名 その他(研修等)20回、44名</p>	<p>各種活動を通じて、少年の非行防止や健全育成活動を推進しています。 今後も、熱意・行動力のある大学生の新規獲得・委嘱に努めていくことが課題です。</p>	
<p>少年補導員兼少年指導委員 502名 少年指導委員 75名 少年補導員、少年指導委員の活動状況 延べ1,190回 (内訳) 街頭補導活動 530回 広報啓発活動(キャンペーン) 115回 環境浄化活動 3回 その他の活動 542回</p>	<p>各種活動を通じて、街頭補導活動や環境浄化活動等を推進しています。 今後も、熱意・行動力のあるボランティアの新規獲得・委嘱に努めていくことが課題です。</p>	

4 地域の様々な主体と市民活動団体等の連携・協働の促進

(2) 市民活動団体等と県行政・市町村行政の協働の推進

No.	事業名	事業概要	実施目標
60	市町村と市民活動団体との連携促進事業 (県民生活・文化課)	各市町村の協働に関する取組や市民活動支援センターの機能強化を支援するとともに、必要に応じ専門家の派遣等を行います。	派遣 10回
61	学校と市民活動団体との連携促進事業 (県民生活・文化課)	地域の民間教育力を活用した地域協働の活性化を図るため、教職員向けの講座を実施することにより、NPOと学校が連携するための環境づくりを促進します。	開催 3回
62	県・市町村推進会議の開催 (県民生活・文化課)	効果的なNPO・ボランティア施策形成に向けて、県と市町村が情報交換・意見交換等を行う推進会議等を開催し、県と市町村との一層の連携と協力を促進します。	市町村市民活動調査の実施を行います。 担当課長会議 開催1回 推進会議 開催1回
63	パートナーシップ推進員会議の開催 (県民生活・文化課)	県庁内における市民活動団体及び市民活動推進施策に対する理解を促進し、協働の体制を強化するため、県行政の関係課職員を「パートナーシップ推進員」として指定し、推進員会議を通じて理解促進や情報共有を行います。	開催 2回

結果	評価	達成度
<p>専門的知見から助言を求める市町村に対し、専門家を派遣。 4/20、7/6 柏市 光が丘コミュニティネットワーク運営委員会 専門家:合同会社 J-doc company代表社員 影山氏 5/29 鴨川市 みんなで育て鯛!まちづくり支援事業連絡会議 専門家:(特非)ディープデモクラシー・センター 加納氏 7/5 茂原市 まちびとカフェ特別版 専門家:(特非)ディープデモクラシーセンター 加納氏 2/9 木更津市 市民活動コーディネーター講座 専門家:(特非)ディープデモクラシーセンター 加納氏</p> <p>[中止] 3/16 大網白里市 まちづくりコーディネーター養成講座 (専門家:関東学園大学経済学部 教授 中村氏)</p>	<p>市町村からの申請取り下げがあったため、実施目標は達成できませんでしたが、各自治体に対するアドバイザー派遣により協働の推進に寄与出来ました。 今後も市町村との情報共有を密にし、より良い支援体制を整備していく必要があります。</p>	
<p>9/21 県立学校等企画・運営リーダー育成研修「NPO活動と学校との連携」 場所:総合教育センター 参加:88名 講師:千葉大学大学院人文公共学府博士 課程後期エースチャイルド株式会社 飯島淳氏</p>	<p>開催目標数には達しませんが、新任の教務主任に対して「NPOと学校との連携」に関する講義・ワークショップの実施を講師派遣により行い、協働の促進に取り組みました。 なお、講師派遣回数は県総合教育センターの研修計画に準拠する必要があることから、次年度の実施目標は見直しを行うこととします。</p>	
<p>4/25 市町村担当課長会議 会場:千葉商工会議所 参加:39市町村52名(県含む)</p> <p>12/18 市町村市民活動担当者会議 会場:千葉県庁 参加:10名(市町村職員)</p>	<p>市町村担当課長会議では、県事業の概要説明を行うとともに、富里市による寄附啓発の取組の事例発表、非営利組織評価センター山田氏による組織評価に関する講演を実施しました。 市町村市民活動担当者会議は、ちばコラボ大賞表彰式及び事例発表会と共催で行いました。市町村職員に対し、協働事業を進める上での参考となるよう、県内で行われている優良な協働事例の紹介を行いました。</p>	
<p>5/24 第1回会議 場所:千葉県教育会館 出席:23名 内容:パートナーシップマニュアル及び千葉県県民活動推進計画(平成30~32年度)等の説明。 講演:日本郵便株式会社 年賀寄付金事務局 竹山吾紀明氏及び千葉大学法政経済学部 関谷昇氏</p> <p>12/18 第2回会議 場所:千葉県庁 出席:14名 内容:ちばコラボ大賞表彰式及び事例発表会</p>	<p>第1回会議は、パートナーシップマニュアル等の説明や講演を通して、県職員に求められる協働の必要性、考え方の理解を促進することができました。 第2回会議は、具体的な協働事例の紹介を行うことで、各協働事業を進める上での参考とすることができました。 今後も県職員として協働をいかに促進していくかを考える機会の提供や、各課との連携体制の強化を図っていきます。</p>	

NPO法人認証事務等について

1 認証事務

NPO法に係る所轄庁の事務は、法律に基づく全国共通の事務となっており、その内容は、設立認証、役員変更、定款変更、事業報告書等の閲覧、解散、合併認証、監督などとなっています。

(1) 設立認証

本年度は、新たに44件の法人設立を認証しました。(詳細は、資料2参照)

表1 設立認証等件数の推移

	設立認証件数	累 計	設立不認証件数	累 計
平成11年度	53件	53件	0件	0件
平成12年度	64件	117件	0件	0件
平成13年度	99件	216件	0件	0件
平成14年度	178件	394件	0件	0件
平成15年度	232件	626件	0件	0件
平成16年度	212件	838件	0件	0件
平成17年度	208件	1046件	0件	0件
平成18年度	172件	1218件	0件	0件
平成19年度	148件	1366件	0件	0件
平成20年度	135件	1501件	0件	0件
平成21年度	135件	1636件	1件	1件
平成22年度	144件	1780件	0件	1件
平成23年度	153件	1933件	1件	2件
平成24年度	108件	2022件	0件	2件
平成25年度	101件	2123件	0件	2件
平成26年度	110件	2233件	0件	2件
平成27年度	99件	2332件	0件	2件
平成28年度	84件	2416件	0件	2件
平成29年度	70件	2486件	0件	2件
平成30年度	57件	2543件	0件	2件
令和元年度	44件	2587件	0件	2件

法改正に伴い19件減少(千葉市へ移管30件、内閣府から移管11件)

(2) 役員変更届

役員に、新任、辞任、解任、住所変更、改名などの理由により変更があった場合は、届け出ることとされています。本年度は、549件の届出がありました。

(3) 定款変更

定款を変更しようとする法人は、社員総会の議決を経て、NPO法第25条第3項に規定する下記事項については、所轄庁の認証を受けなければ効力を生じないと定められています。また、法第25条第3項に規定する事項を除いた定款変更については、遅滞なくその旨を所轄庁に届け出なければならないと定められています。

本年度、定款変更認証の認証件数は90件となっています。また、定款変更届出件数は153件となっています。

(参考) 法第25条第3項に規定する事項

目的、名称、特定非営利活動の種類及び事業、所轄庁の変更を伴う事務所の所在地、社員の資格の得喪、役員（定数に係るものを除く。）、会議、その他の事業、解散（残余財産の帰属すべき者に係るものに限る。） 定款の変更に関する事項

(4) 事業報告書等

NPO法人は、毎事業年度終了後3か月以内に、事業報告書、財産目録、貸借対照表、活動計算書、年間役員名簿及び10人以上の社員名簿を所轄庁に提出しなければなりません。令和元年度においては、1550件の提出がありました。

提出された事業報告書等については、所轄庁において、これを公開する義務があり、千葉県では閲覧に供するとともに、事業報告書、財産目録、貸借対照表、活動計算書を内閣府のNPO法人ポータルサイトに掲載しています。

なお、未提出法人については、督促を実施します。

表2 督促法人数

1事業年度分未提出	326法人
2事業年度分未提出	32法人
3事業年度分未提出	18法人
計	376法人

(5) 解散・合併

本年度は、総会の決議など認証取消し以外の事由により解散が確認された法人が45件ありました。また、合併はありませんでした。

(6) 監督

所轄庁による設立認証の取消しは、NPO法第43条の規定に基づき、改善命令違反の場合、事業報告書等を3年以上にわたって未提出の場合、改善命令による改善が期待できない場合、NPO法第13条第3項の規定に基づき、設立の認証を受けた者が設立の認証があった日から6か月を経過しても登記をしない場合に行うことができます。

本年度は、4件の認証取消処分を行いました。

表3 取消事由別法人数（取消処分後の解散日で計上）

改善命令違反等	0 法人
事業報告書等を3年以上にわたって未提出	3 法人
改善命令によっても改善が期待できないことが明らか	1 法人
認証があった日から6か月を経過しても登記をしない	0 法人
その他（法第12条不適合により認証無効）	0 法人
計	4 法人

2 認定事務

認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことにより、NPO法人の活動を支援するために税制上設けられた措置として、NPO法人のうち一定の要件を満たすものについて、これまで、国税庁長官が認定を行う制度でしたが、法改正により、所轄庁が認定を行う新たな認定制度として創設され、平成24年4月1日から実施されています。

	認 定	特例認定	合 計	旧国税庁認定
平成25年度末	11 法人	8 法人	19 法人	8 法人
平成26年度末	16 法人	6 法人	22 法人	5 法人
平成27年度末	23 法人	6 法人	29 法人	3 法人
平成28年度末	28 法人	2 法人	30 法人	2 法人
平成29年度末	29 法人	2 法人	31 法人	0 法人
平成30年度末	29 法人	0 法人	29 法人	0 法人
令和元年度末	29 法人	0 法人	29 法人	0 法人